

大鳴門橋周辺環境整備基本構想・基本計画策定

基本構想・基本計画

令和 3 年 3 月

兵庫県 南あわじ市

目 次

1 本計画の概要	1
1.1 本計画の目的	1
1.2 計画対象範囲	1
2 現状と課題	2
2.1 大鳴門橋周辺エリア等の現状	2
2.2 周辺環境に配慮した大鳴門橋周辺エリアの問題・課題・留意点	13
3 施設整備コンセプト	14
4 導入機能	15
4.1 大鳴門橋周辺エリアの対象範囲	15
4.2 導入機能の基本的な考え方	16
4.3 道の駅と周辺施設との機能分担・連携の考え方	17
4.4 導入機能と主な導入施設	19
5 駐車需要規模の算定	22
6 ゾーニング計画	25
7 施設計画	26
7.1 旧みさき荘エリア	26
7.2 旧みさき荘～笹山駐車場エリア	29
7.3 笹山駐車場エリア	30
7.4 新設駐車場エリア	31
8 本施設の利活用による地域振興方策の検討	32
8.1 基本的な考え方 ～地域・施設が能動的に仕掛ける対策～	32
8.2 広告宣伝・イベント等の企画・運営に関する提案	32
9 事業スケジュールの検討(案)	36
10 事業手法の検討(民間活力導入可能性調査)	37
10.1 道の駅うずしお	37
10.2 笹山駐車場及び新設駐車場	37

1 本計画の概要

1.1 本計画の目的

道の駅うずしおは、1970（昭和 45）年に鳴門みさき荘として開業した施設を活用し、1998（平成 10）年に道の駅として供用を開始している。当該施設は、建設後約 50 年が経過しており、老朽化や施設拡充等の課題を有するとともに、南あわじ市第二次総合計画や南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略において道の駅の整備（活性化）による地域活性化や観光交流人口の拡大が位置づけられている。また、大鳴門橋等のサイクリング道の整備検討が進められており、本施設はその拠点として一体的整備が期待されている。

こうした状況を踏まえ、本計画では、道の駅うずしお及び周辺エリアを再整備するための「大鳴門橋周辺環境整備基本構想・基本計画」を策定し、施設整備における方向性を整理する。

1.2 計画対象範囲

本計画の計画対象範囲は、以下のとおりである。

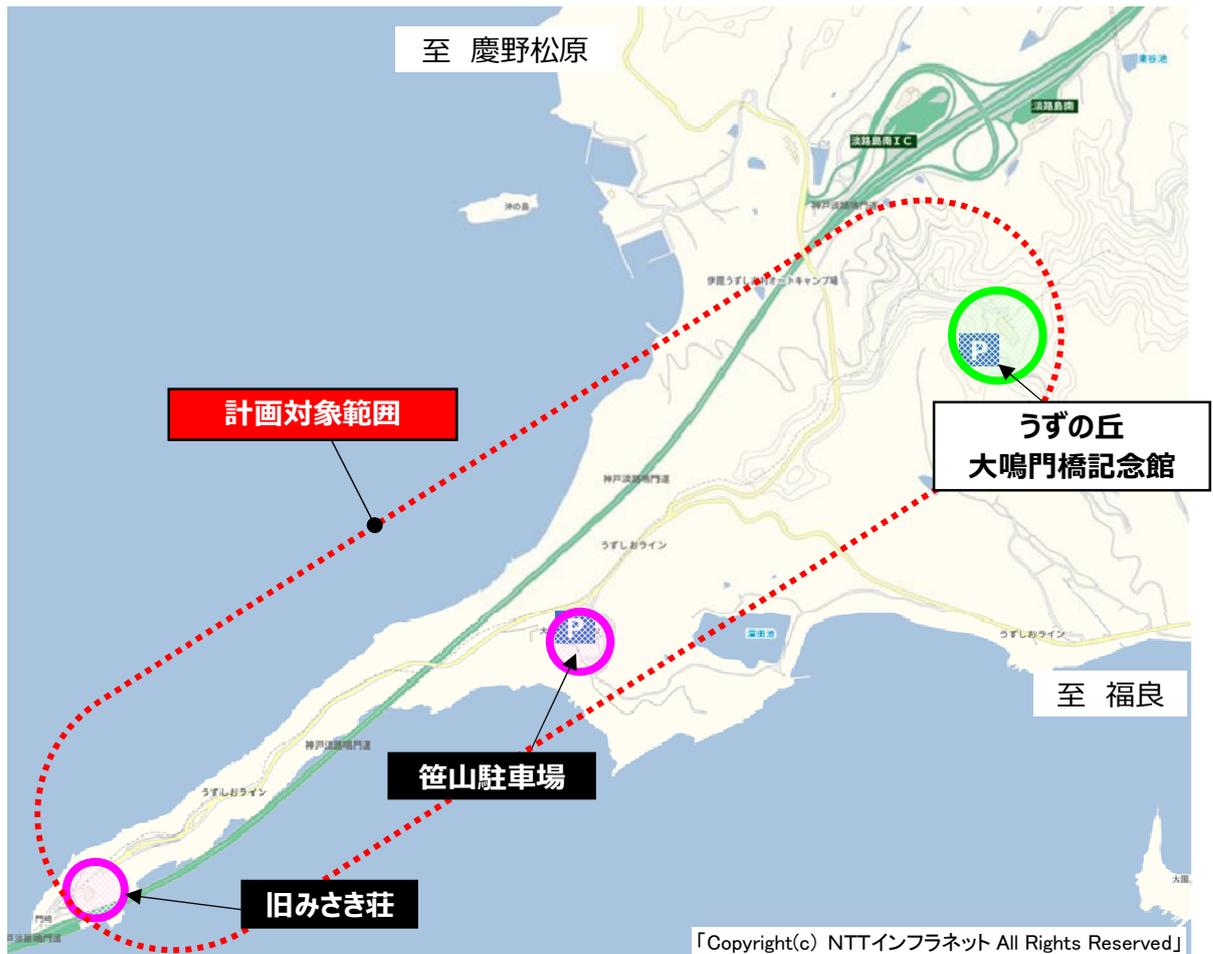


図 1.1 計画対象範囲図

2 現状と課題

2.1 大鳴門橋周辺エリア等の現状

2.1.1 広域的視点からみた淡路島に対する基本的な考え方

The New York Times が発表した「52Places to Go in 2019」では、SETOUCHI が7位にランクインしており、瀬戸内地域は世界からの注目が高まっている。中でも、しまなみ海道・とびしま海道は、瀬戸内海の島々を楽しめる日本初の海峡横断自転車道として、多くのサイクリストが訪れている。備讃瀬戸エリアでは瀬戸内芸術祭が開催され、回を追うごとに海外からの訪問者も増加している。また、「うずしお」は、世界三大潮流のひとつである鳴門海峡の潮流から発生するものである。

本計画の対象エリアである大鳴門橋周辺を含む淡路島は、食（農・畜・海産物のすべて）や歴史・文化（国生み神話等）、瀬戸内海国立公園・鳴門海峡などの自然といった豊かな地域資源を有しており、大阪・関西万博を契機に多くの来訪が期待される関西エリアからの近接性も活かした取り組みの展開により、淡路島のみならず SETOUCHI 全体のブランディングに寄与することが重要であると考える。



「Copyright(c) NTTインフラネット All Rights Reserved」

図 2.1 広域的な視点での淡路島のあり方

2.1.2 上位関連計画

上位関連計画における大鳴門橋周辺エリアの位置づけは以下のとおりである。

表 2.1 上位関連計画における大鳴門橋周辺エリアの位置づけ

計画名	大鳴門橋周辺エリアの位置づけ
第2次南あわじ市総合計画	● 新たな産業づくりとして、地元産品の販路拡大・付加価値向上や6次産業化への支援、観光については農畜水産物・加工品などの味力発信と販促
淡路島総合観光戦略 (淡路島総合観光戦略策定会議)	● 地域の強みである歴史・文化、食、自然・癒しを活用
あわじ環境未来島構想 (県・3市連携計画)	● 生命つながる「持続する環境の島」をめざし、暮らしとエネルギー、農と食の持続に関する活動を展開するなど、自然と調和した暮らしへの取り組みを推進

2.1.3 法規制

南あわじ市は、灘地区及び沼島地区を除く市内全域で、都市地域（都市計画区域）に指定されている。また、区域区分は定められておらず、用途地域の指定も行っていない。

大鳴門橋周辺エリアは森林地域及び緑豊かな地域環境の形成に関する条例（緑条例）における環境形成区域（緑を守る区域）に指定されており、さらに瀬戸内海国立公園の指定区域となっていることから規制が強いエリアとなっている。

2.1.4 南あわじ市の現状

(1) 位置

南あわじ市は、南北に長い地形の淡路島の南部に位置し、兵庫県域の約 2.7%を占めている。神戸市から 60 km圏、大阪市から 80 km圏にあり、市の中央を走る神戸淡路鳴門自動車道によって、明石海峡大橋を経て神戸へ 50 分、大阪へ 90 分、また、大鳴門橋を経て徳島へ 40 分の距離にある。

南あわじ市の幹線道路網を形成する国道・県道のうち、中心部を神戸淡路鳴門自動車道と並行して国道 28 号が、市域の外縁部を主要地方道が走っている。また、地域間を結ぶ道路として一般県道が、主に生活に利用される道路として市道が整備されている。



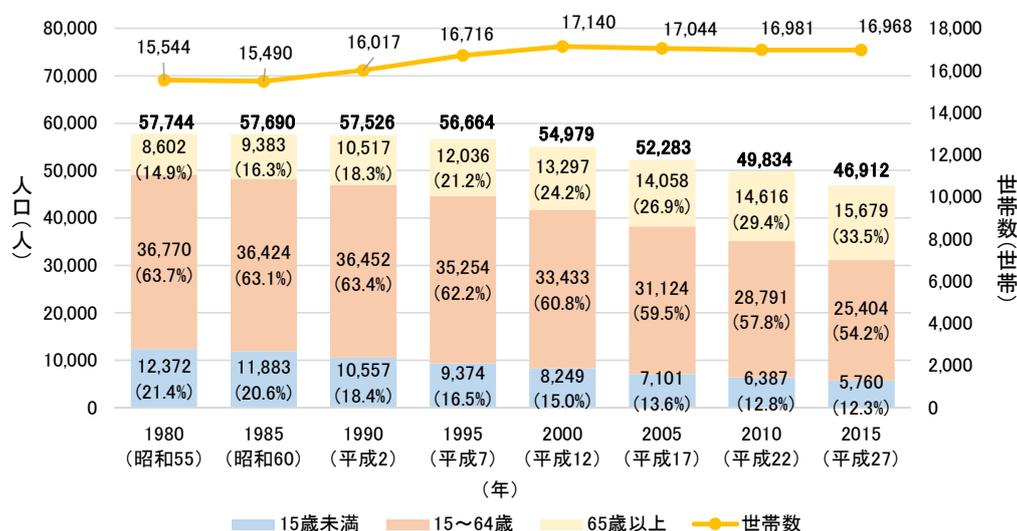
「Copyright(c) NTTインフラネット All Rights Reserved」

図 2.2 位置図

(2) 人口

南あわじ市の総人口は、1980（昭和 55）年から 15 年間は緩やかな減少となっているが、1995（平成 7）年以降は減少幅が大きくなっている。

また、人口構成比の推移では、15 歳未満の年少人口、15～64 歳の生産年齢人口は年々減少している一方で、65 歳以上の老年人口（高齢者）は年々増加しており、一貫して少子高齢化が進行している。



出典：国勢調査

図 2.3 人口及び世帯数の推移

(3) 産業

1) 市内就業者数

2015（平成 27）年の国勢調査によると、産業別就業者割合は、第 1 次産業が 23.7%、第 2 次産業が 22.3%、第 3 次産業が 52.0%となっており、兵庫県全体はもとより、淡路島全体と比較しても第 1 次産業の割合が高くなっている。しかし、第 1 次産業と第 2 次産業の従業者数は年々減少傾向にあり、第 3 次産業の就業者割合は増加している。

また、65 歳以上の高齢者の就業割合は、2010（平成 22）年から 2015（平成 27）年にかけてわずかに上がっており、国平均、兵庫県平均と比較しても高くなっている。

2) 農業

南あわじ市は冬場も温暖な気候に恵まれ、水稻を基礎にしながら、野菜（タマネギ、レタス、ハクサイ、キャベツなど）を組み合わせた三毛作による高度な農地利用が行われている。

農業就業者数は、2015（平成 27）年は 6,292 人で、1995（平成 7）年と比較すると約 36%減少している。また、総農家数についても、2015（平成 27）年は 4,108 戸で、1995（平成 7）年と比較すると約 24%減少している。

近年 10 年間の農業総生産額は 100 億円を上回り推移している。2018（平成 30）年度の兵庫県全体の農業総生産額は 790.9 億円となっており、その内、南あわじ市は 14.6%と高い割合を占めている。

3) 漁業

南あわじ市の漁業は、播磨灘や鳴門海峡などから新鮮な魚介類が多く水揚げされている。鳴門海峡のマダイ、沼島のハモや一本釣りのアジなど魚の種類は豊富で、京阪神や東京・築地の魚市場に高級魚として出荷されている。また、ノリやワカメ、福良湾の淡路島 3 年とらふぐなどの養殖漁業も行われている。

漁業就業者数（組合員数）は、2015（平成 27）年は 549 人で、1993（平成 5）年と比較すると約 50%減少している。

また、漁獲高については、1993（平成 5）年は約 50 億円だったが、2005（平成 17）年には約 24 億円と約 50%減少し、2015（平成 27）年には約 20 億円となっている。

4) 商業

南あわじ市の商業は、国道 28 号沿道や主要地方道福良江井岩屋線沿道での大規模小売店舗の立地がみられる一方で、商店街や小規模小売店の店舗数は減少傾向となっている。2014（平成 26）年の従業者数は 3,639 人、事業所数は 703 事業所、年間販売額は 865 億 2,756 万円となっている。

5) 工業・製造業

南あわじ市の工業・製造業は、淡路瓦や淡路手延素麺などの地場産業をはじめ、企業団地や幹線道路などでの立地がみられる一方で、2000（平成 12）年以降、従業者数・事業所数ともに減少傾向となっている。2014（平成 26）年の従業者数は 2,783 人、事業所数は 151 事業所、製造品出荷額などは 548 億 9,440 万円となっている。

6) 観光

南あわじ市では、淡路ファームパーク イングランドの丘や淡路人形座、淡路人形浄瑠璃資料館、鳴門海峡の渦潮、灘黒岩水仙郷、慶野松原など豊かな地域資源と魅力ある集客施設の相互連携を図っている。

近年の観光入込客数は、2012（平成 24）年度以降は微増傾向となり約 300 万人前後を推移しているが、2017（平成 29）年度に減少に転じている。このうち日帰り客は増加傾向、宿泊客は減少傾向となっている。訪日外国人観光客数は、2015（平成 27）年度は 30,298 人であったが、2018（平成 30）年度は 11,855 人と減少傾向となっている。

(4) 自然

南あわじ市は法規制によって良好な自然環境が保全されており、自然の力で豪快に渦巻く「鳴門のうずしお」や美しい海浜景観の広がる慶野松原や海水浴場・キャンプ場、美しい花が見られる灘黒岩水仙郷、広田梅林ふれあい公園などの自然資源がある。

(5) 歴史・文化

南あわじ市は、縄文時代より人々の営みが続いており、古事記や日本書紀に記された国生み神話の舞台であるおのころ島伝説、淡路の政治・経済・文化の中心地としての歴史を物語る淡路国府跡をはじめ、南北朝時代から戦国時代にかけての史跡や、伝統的な祭りや神話・伝説などが多数残されている。

(6) 交通

道の駅うずしお・大鳴門橋記念館の駐車場は年間を通して満車になる日が多く、特にGWでは道の駅うずしお、大鳴門橋記念館とも全駐車場満車になったうえ、駐車待ち行列がICまで続く状況である。

また、笹山駐車場方面に入った車は、迂回路がないため出ることができず、駐車待ち行列が長くなる要因となっている。



図 2.4 現在の駐車状況

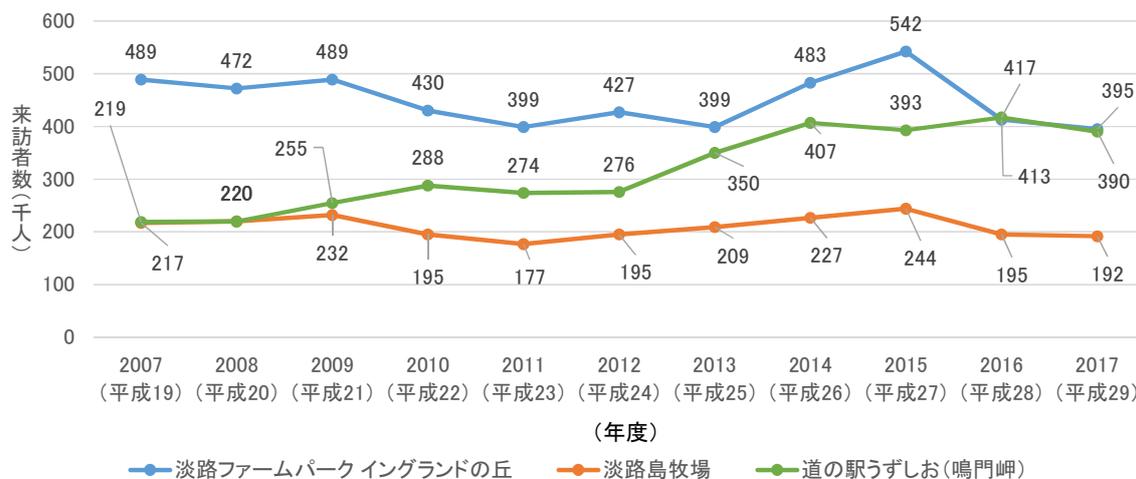
【参考：不足駐車台数の試算】

GWにおける利用状況より、駐車待ち行列の長さから追加で整備が必要な駐車需要を試算。笹山駐車場は、駐車待ち行列がどの程度か不明なため、複数のパターンを想定して試算。現状 440 台に加えて、最大で 286 台の整備が必要。



2.1.5 本施設及び周辺環境の現状

「道の駅うずしお」は来訪者数が増加傾向となっており、2017（平成29）年度では395千人となっている。



出典：南あわじ市受領データ

図 2.5 南あわじ市の観光施設の来訪者数

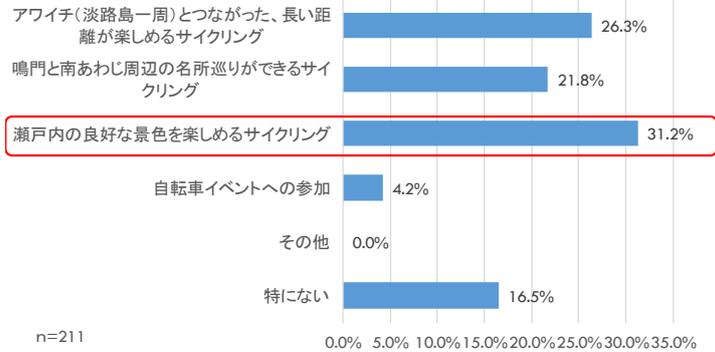
2.1.6 利用者ニーズ等の整理

(1) アンケート調査

大鳴門橋周辺エリアの再整備に関する利用者のニーズを整理するため「道の駅うずしお」においてアンケート調査を実施した。その結果は下記のとおりである。

表 2.2 アンケート調査の結果概要

設問	調査結果概要																																																				
1. 「道の駅うずしお」へ来訪した目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 来訪目的は、「土産物の購入」が 29.4%で最も多く、次いで「うずしおの展望」が 22.3%、「あわじ島バーガーの購入」が 18.1%となっている。 ● 休日、平日別でもおおむね同様の傾向となっている。 <p>→人気のある導入機能は、新たな道の駅にも反映。(土産物屋、うずしお展望広場、あわじ島バーガー店)</p> <table border="1"> <caption>来訪目的の割合 (n=211)</caption> <thead> <tr> <th>目的</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土産物の購入</td> <td>29.4%</td> </tr> <tr> <td>うずしおの展望</td> <td>22.3%</td> </tr> <tr> <td>あわじ島バーガーの購入</td> <td>18.1%</td> </tr> <tr> <td>レストランでの食事</td> <td>13.5%</td> </tr> <tr> <td>休憩・トイレ利用</td> <td>11.0%</td> </tr> <tr> <td>観光や地域情報の収集</td> <td>4.9%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0.7%</td> </tr> </tbody> </table>	目的	割合	土産物の購入	29.4%	うずしおの展望	22.3%	あわじ島バーガーの購入	18.1%	レストランでの食事	13.5%	休憩・トイレ利用	11.0%	観光や地域情報の収集	4.9%	その他	0.7%																																				
目的	割合																																																				
土産物の購入	29.4%																																																				
うずしおの展望	22.3%																																																				
あわじ島バーガーの購入	18.1%																																																				
レストランでの食事	13.5%																																																				
休憩・トイレ利用	11.0%																																																				
観光や地域情報の収集	4.9%																																																				
その他	0.7%																																																				
2. 「道の駅うずしお」の利用頻度	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用頻度は、「初めて」が 61.6%で突出して多く、日常的な利用者はいない。(休日、平日別でもおおむね同様の傾向) ● 利用時間はお昼(11:30~12:30)が多い。 ● 滞在時間は1時間程度。 <p>→新たな道の駅において、はじめて利用する方にもわかりやすく利用しやすい案内誘導などが必要。</p> <p>→昼間の利用者集中がみられる。昼間以外においても利用者が楽しめる導入機能などの検討が必要。</p>																																																				
3. 「道の駅うずしお」を利用した際に困ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 「駐車場が少ない・不便である」「あわじ島バーガーを目当てに来たが買うまでに時間がかかる」「休憩スペースが少ない」ことが問題。 ● 特に休日では、「駐車場が少ない・不便である」が約3割と高く、「土産物の売り場が狭い」も平日と比較して高い一方、平日では、「休憩スペースが少ない」が休日と比較して高い。 <p>→駐車場不足への対応が必要。</p> <p>→休憩スペース、土産物売り場面積の増加が必要。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>休日</th> <th>平日</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駐車場が少ない、不便である</td> <td>25.9%</td> <td>16.2%</td> <td>21.6%</td> </tr> <tr> <td>トイレが少ない</td> <td>4.9%</td> <td>12.3%</td> <td>8.2%</td> </tr> <tr> <td>トイレが汚い</td> <td>4.3%</td> <td>7.7%</td> <td>5.8%</td> </tr> <tr> <td>レストランの待ち時間が長い</td> <td>6.2%</td> <td>3.1%</td> <td>4.8%</td> </tr> <tr> <td>レストランで提供されるメニューが少ない</td> <td>1.2%</td> <td>2.3%</td> <td>1.7%</td> </tr> <tr> <td>あわじ島バーガーを目当てに来たが買うまでに時間がかかる</td> <td>16.0%</td> <td>13.1%</td> <td>14.7%</td> </tr> <tr> <td>土産物の数が少ない</td> <td>3.1%</td> <td>3.1%</td> <td>3.1%</td> </tr> <tr> <td>土産物の売り場が狭い</td> <td>11.1%</td> <td>6.2%</td> <td>8.9%</td> </tr> <tr> <td>展望施設が狭い、眺望がわるい、ゆっくり楽しめない</td> <td>3.7%</td> <td>3.1%</td> <td>3.4%</td> </tr> <tr> <td>子どもの遊び場がない</td> <td>5.6%</td> <td>2.3%</td> <td>4.1%</td> </tr> <tr> <td>休憩スペースが少ない</td> <td>12.3%</td> <td>18.5%</td> <td>15.1%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5.6%</td> <td>12.3%</td> <td>8.6%</td> </tr> </tbody> </table>		休日	平日	全体	駐車場が少ない、不便である	25.9%	16.2%	21.6%	トイレが少ない	4.9%	12.3%	8.2%	トイレが汚い	4.3%	7.7%	5.8%	レストランの待ち時間が長い	6.2%	3.1%	4.8%	レストランで提供されるメニューが少ない	1.2%	2.3%	1.7%	あわじ島バーガーを目当てに来たが買うまでに時間がかかる	16.0%	13.1%	14.7%	土産物の数が少ない	3.1%	3.1%	3.1%	土産物の売り場が狭い	11.1%	6.2%	8.9%	展望施設が狭い、眺望がわるい、ゆっくり楽しめない	3.7%	3.1%	3.4%	子どもの遊び場がない	5.6%	2.3%	4.1%	休憩スペースが少ない	12.3%	18.5%	15.1%	その他	5.6%	12.3%	8.6%
	休日	平日	全体																																																		
駐車場が少ない、不便である	25.9%	16.2%	21.6%																																																		
トイレが少ない	4.9%	12.3%	8.2%																																																		
トイレが汚い	4.3%	7.7%	5.8%																																																		
レストランの待ち時間が長い	6.2%	3.1%	4.8%																																																		
レストランで提供されるメニューが少ない	1.2%	2.3%	1.7%																																																		
あわじ島バーガーを目当てに来たが買うまでに時間がかかる	16.0%	13.1%	14.7%																																																		
土産物の数が少ない	3.1%	3.1%	3.1%																																																		
土産物の売り場が狭い	11.1%	6.2%	8.9%																																																		
展望施設が狭い、眺望がわるい、ゆっくり楽しめない	3.7%	3.1%	3.4%																																																		
子どもの遊び場がない	5.6%	2.3%	4.1%																																																		
休憩スペースが少ない	12.3%	18.5%	15.1%																																																		
その他	5.6%	12.3%	8.6%																																																		

設問	調査結果概要														
<p>4. 自転車道整備による道の駅付近での楽しみ方</p>	<p>● 「瀬戸内の良好な景色を楽しめるサイクリング」が 31.2%で最も多く、次いで「アワイチ（淡路島一周）とつながった、長い距離が楽しめるサイクリング」が 26.3%、「鳴門と南あわじ周辺の名所巡りができるサイクリング」が 21.8%となっており、サイクリングコースの充実が求められている。</p> <p>→サイクリングコースの充実。</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>瀬戸内の良好な景色を楽しめるサイクリング</td> <td>31.2%</td> </tr> <tr> <td>アワイチ（淡路島一周）とつながった、長い距離が楽しめるサイクリング</td> <td>26.3%</td> </tr> <tr> <td>鳴門と南あわじ周辺の名所巡りができるサイクリング</td> <td>21.8%</td> </tr> <tr> <td>自転車イベントへの参加</td> <td>4.2%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>特になし</td> <td>16.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n=211</p>	活動内容	割合	瀬戸内の良好な景色を楽しめるサイクリング	31.2%	アワイチ（淡路島一周）とつながった、長い距離が楽しめるサイクリング	26.3%	鳴門と南あわじ周辺の名所巡りができるサイクリング	21.8%	自転車イベントへの参加	4.2%	その他	0.0%	特になし	16.5%
活動内容	割合														
瀬戸内の良好な景色を楽しめるサイクリング	31.2%														
アワイチ（淡路島一周）とつながった、長い距離が楽しめるサイクリング	26.3%														
鳴門と南あわじ周辺の名所巡りができるサイクリング	21.8%														
自転車イベントへの参加	4.2%														
その他	0.0%														
特になし	16.5%														
<p>5. 「道の駅うずしお」を再整備する際にあったら良いと思う施設やサービス</p>	<p><道の駅として必要な施設></p> <p>● 道の駅として必要な施設は、「フードコート・カフェ」が 17.8%で最も多く、次いで「物産施設（名産品など）」が 16.2%、「あわじ島バーガーなどの売店」が 13.1%、「レストラン」が 11.8%、となっており、飲食機能への要望が高い。</p> <p>● 飲食以外では「うずしおが眺められる展望施設・広場」が 12.9%、「温浴施設・シャワールーム・足湯」が 10.2%と要望が高くなっている。</p> <p>● 平日と休日を比較すると「物産施設（名産品など）」「レストラン」の要望が休日が高い傾向となっている。</p> <p>→飲食機能の充実が必要。</p> <p>→飲食機能以外は展望施設・広場、温浴施設・シャワールーム・足湯などの機能の充実が必要。</p> <p><自転車道整備により必要な施設></p> <p>● 自転車道整備により必要な施設は、「初心者や家族が楽しめるレンタサイクル」が 22.2%で最も多く、次いで「自転車修理ができるサイクルステーション」が 18.0%、「更衣室」が 15.1%、「大鳴門橋をバックに、写真撮影ができる撮影スポット」が 14.2%となっている。</p> <p>● 平日と休日を比較すると「初心者や家族が楽しめるレンタサイクル」は平日で多く、「自転車修理ができるサイクルステーション」は休日で多い傾向となっている。</p> <p>→サイクルステーションやレンタサイクルの整備が必要。</p>														
<p>6. 回答者の属性</p>	<p>● 回答者の属性は、男性が約 4 割、女性が約 6 割。</p> <p>● 回答者の年齢は、平日は 30 歳代、40 歳代が多く、休日は 20 歳代～50 歳代が多い。</p> <p>● 回答者の居住地は、平日・休日ともに兵庫県、大阪府が多い。</p> <p>● 回答者の交通手段は、平日、休日ともに自家用車が多い。</p> <p>● 同伴者は、平日、休日ともに家族が約 8 割で多い。</p>														

(2) ヒアリング調査

大鳴門橋周辺エリアの現状や課題、地域団体の活動内容等について把握するとともに、インバウンドやサイクリスト等の道の駅利用者のニーズを把握するためヒアリング調査を実施した。その結果は下記のとおりである。

表 2.3 ヒアリング調査の結果概要

設問		調査結果概要
1. 南あわじ市の観光の現状と課題	南あわじ市の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光コンテンツは「食」「歴史」「文化」「温泉」「景色」 ● 食ではとらふぐ、淡路牛、鯛、鱧、わかめ、牛乳、地鶏、日本酒、ちりめん、たまねぎ、なるとオレンジ等があり、特に淡路牛、たまねぎは全国的に有名で年間を通した美味しい食事が楽しめる ● 特にハモ、三年とらふぐ、淡路牛はキラーコンテンツ ● 歴史では国生み神話、古墳、沼島、おのころ神社、文化としては人形浄瑠璃、銅鐸、瓦が有名 ● 市内にうずしお温泉、潮崎温泉など泉質の良い7つの源泉がある ● 鳴門のうずしお、鳴門海峡、慶野松原からの夕陽などの景色が売り ● 大阪、京都、神戸、奈良より2～3時間で行くことが出来る距離が魅力 ● 四季折々の花が楽しめる
	観光の現状	<ul style="list-style-type: none"> ● マイカーやレンタカーが多く、日帰りが多い ● 淡路島北部のパソナの施設は観光客が増えているが、南あわじ市までは波及していない ● 旅行商品（利用者）は、9割が日帰りバスツアーで、宿泊は少ない ● ターゲット層は60歳～70歳のアクティブシニア層、女性グループ、リピーターが多い
	観光の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐車場やアクセス道が問題、各観光施設をつなぐ公共交通が不足 ● IT活用による業務の効率化などが必要 ● 外国語対応が出来る人員が不足 ● 外国人実習生により生産の場は人員が確保できているが、販売する場での人員確保が難しい（繁忙期のみ雇用可能な人材が不足） ● 海を活用した体験型レジャー施設が少ない ● 外からの目線で南あわじ市の観光魅力をとらえ発信していくべき ● 西海岸で新しい観光施設が整備されているが、南あわじ市には新しい観光地がない
2. 南あわじ市への来訪者からの観光に関する要望(ニーズ)	<ul style="list-style-type: none"> ● 土産物屋や飲食店に対する問い合わせが多い ● 個人の好みに応じた商品の提供ができる仕組みが必要 ● うずしおは自然のものであるため、天候や見ることが出来ない時間もありクレームが出ることもある ● 公共交通機関で行く場合、周遊観光するための交通アクセスが不足しているといわれる ● 海産物が購入できる大型の土産店が欲しい ● いちご狩りなど味覚狩りの体験がしたい（団体ツアー向け） ● 全体的に宿泊施設を含む観光施設のおもてなし力が弱い 	
3. コロナ後の観光の状況・来訪者のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナウィルス感染症後も南あわじ市の観光の売りは変わらない ● 客層は阪神間の若者層へ変化 ● 南あわじ市への移住者は増加傾向で、移住された方で起業を考えている方は熱心であり、若い方の起業が増加 ● 京阪神間で海外や遠方に旅行に行けない方が淡路島に来ている 	

設問	調査結果概要
4. 自転車ツーリズムに対する考え	<ul style="list-style-type: none"> ● 無料の Wi-Fi スポットにサイクリストは集まる傾向 ● 自転車ツーリズムの方はコンビニエンスストアが主な消費施設 ● 淡路島として自転車ツーリズム客に対応した商品・サービスをうまく提供できているとは言えない ● 自転車ごと入ることが出来るレストランなどの需要がある ● 陸の港でレンタサイクルを実施しているが、周辺に観光施設がないことや道路が狭く安全に自転車が走行できないことが課題 ● サイクリストに対応した栄養補給ドリンクなどの開発をしてはどうか
5. 南あわじ市の観光客受入体制	<ul style="list-style-type: none"> ● 商工会や観光協会は事業者支援の窓口としての機能を果たしている ● ボランティアガイドもいるが、あくまでもボランティアで儲けるところまではしていない ● 修学旅行などについては丸山漁港で漁業体験を実施している ● 観光案内所で体験観光の受付はしているが、事前に個人で体験予約をしており、淡路島に来てから観光案内所で体験観光を予約する人は少ない
6. 「道の駅うずしお」の評価・魅力	<ul style="list-style-type: none"> ● 土産物売り場はカテゴリー分けや多彩なポップ活用など商品陳列がうまく買いやすい、オリジナル商品も多い、試食などもあり活気がある ● 土産品も品揃えが豊富であるが、かなり密な状況であることが問題 ● 話題づくりがうまく情報発信力がある ● エージェントの要望に応じて食事メニューを柔軟に作ってくれるがキャパシティの問題から土日の団体を受け入れてもらえない ● うずしおが近くで眺められる展望は魅力的であるがうずしおの景色、名前だけではキラコンテンツとして認知されていない ● 日本一のバーガーが食べられることが魅力
7. 「道の駅うずしお」の再整備で必要な機能や施設、サービス等	<p><必要な機能></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 階段などバリアフリー化（階層を移動する際のエスカレーター） ● コロナウィルス感染症に対応したソーシャルディスタンス、HACCP に対応した施設づくり ● 市内全体の観光案内や観光客に対するおもてなしを充実させることが求められる ● 個人・団体・インバウンド全てに対応可能な形が望ましい（多言語化看板と観光案内マップ、JNTO のカテゴリー2 レベルの観光案内施設） ● 観光案内としてコンシェルジュ機能の充実が必要 <p><必要な施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 駐車場の拡充（パーク&バスライド導入の検討） ● 最大のポイントである大鳴門橋（鳴門海峡）ビューの食事施設 ● 団体枠のあるレストラン、リーズナブルな値段のレストラン ● 特産品が購入できる売店（現在の2倍位のスケール） ● 鳴門大橋が近くに見えるロケーションを活かした宿泊施設 ● 良好な泉質の温泉を活用した海への見晴らしがよい足湯など ● 体験申し込みが出来る案内施設 ● 加工場で商品を作っている様子が見られるような見学の間 ● 道の駅にキッチンカー広場 ● 綺麗なトイレ ● 1時間程度滞在可能な花畑や美しい風景などインスタ映えする展望台やパワースポット、体験施設など ● コワーキングスペース

設問	調査結果概要
	<p><必要なサービス></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 建物の中だけでも Wi-Fi がしっかりしていることが重要 ● サイクリスト向けのおもてなし（サイクルラック・工具貸し出し・休憩所など） ● 福良など主要観光拠点間を繋ぐシャトルバスの運行 ● 乗り放題券などによる公共交通の充実 ● 道の駅うずしおまでの渋滞に対する団体バスだけ通行可能などの対応
8. 「道の駅うずしお」等を活用した今後考えられる旅行商品	<p><大鳴門橋自転車道を活用した旅行商品></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若年層や家族層をターゲットとしたサイクリングツアーや大鳴門橋ウォークツアー（1.7km、30分で四国まで渡れる） ● うずしおクルーズ、大鳴門橋を自転車で渡りながら景色を眺められる天空テラス、おいしい食事などのコンテンツの組み合わせ <p><道の駅うずしお周辺の観光施設とのセット旅行商品></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 秋・冬のコンテンツとして夕陽の活用、サンセットクルーズ ● 自転車（大鳴門橋）や海のアクティビティ、インフラツーリズム ● お酒の飲める海上テラスツアーなど旅館とセットで打ち出す ● ひとところゆったりする観光モデルの場所としての活用 ● 周辺の若人の広場などと一体的に防空壕跡を活用した教育旅行向け平和学習プラン
9. その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人旅行対応だけでなく、団体旅行へも対応できるように整備してほしい ● 客単価が高い60歳代以上の方をターゲットにしてはどうか ● うずしおクルーズ、道の駅をセットした三宮からのモデルルートの発信が必要 ● うずしおが世界遺産になれば大きな観光コンテンツとなる ● 長期滞在型の観光として、陸の港、美菜恋来屋、道の駅うずしお、大鳴門橋記念館へのコンシェルジュの配置が必要 ● 定休日（木曜日）のみ出店可能な事業者との連携

(3) SNS 調査

Twitter を活用して大鳴門橋周辺エリアへの来訪者の利用状況や問題点などの意見を取りまとめた。

調査結果は、淡路島バーガーはおいしいとの評価が高い一方、長蛇の列が問題としてあげられている。

うずしおは、クルーズ船に乗らなくても見られるという意見がある一方、資源としての魅力に欠けるという意見があげられている。

海鮮や淡路牛、玉ねぎソフト、玉ねぎなど食がおいしい、お土産が充実しているという意見が多くみられる。また、駐車場に関しては渋滞問題があげられている。

2.2 周辺環境に配慮した大鳴門橋周辺エリアの問題・課題・留意点

2.2.1 大鳴門橋周辺エリアの問題・課題

現状・社会動向を踏まえ、「南あわじ市の概要」「立地性」「交通」「観光」の視点より課題を整理する。

表 2.4 課題の整理

分類	問題点	課題
南あわじ市の概要に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化対策として、人口増につながる移住・定住情報の発信が必要 ● 南あわじ市の農産物や国生み伝説などの歴史文化を地域振興に活かすため、来訪者が地域の食や歴史・文化、自然について知り、体験できる場が必要 	移住・定住に向けた情報発信・交流の場の創出
	<ul style="list-style-type: none"> ● 南海トラフに対応可能な避難所がないことから、高台に立地する特性を活かすとともに、情報発信機能等を備えている特性を活かした防災機能の強化が必要 	市民及び来訪者の安全・安心への貢献
	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知度・関心度、購入意向度が高い「たまねぎ」を中心に地元産品の販路拡大・付加価値向上や6次産業化による雇用創出や所得向上が必要 	地域住民・産業の活性化への貢献
立地性に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 「持続する環境の島」「瀬戸内海国立公園」としての良好な自然環境の維持・保全をめざし、自然環境や景観に配慮した整備が必要 ● 自転車をはじめとしたエコな観光のあり方を創出することが重要 ● うずしお等の南あわじ市ならではの自然を楽しめる場の創出が必要 	自然環境・景観に配慮した観光地の創出
	<ul style="list-style-type: none"> ● ハイシーズンでの駐車場不足、アクセス道路の渋滞対策が必要 ● 今後の自転車道整備に伴い増加するサイクリストなどに対応した駐車場等の整備が必要 ● 道の駅区間を安全・安心に利用できる自転車道整備や駐車場整備が必要 	ハイシーズン及び長時間利用者を踏まえた渋滞緩和
	<ul style="list-style-type: none"> ● アワイチの徳島からの玄関口としての機能強化が必要 ● 島内サイクリングを行う上での環境の充実が必要 ● 今後の自転車道整備に伴い初心者や家族向けレンタサイクル等の楽しみの提供が必要 	アワイチの中間地としてのサイクルステーション機能強化
観光に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史・文化、食、自然・癒し等を明確にし、周辺観光地との連携や役割分担などにより戦略的な観光施設整備が必要 ● 家族層、夫婦層などの個人客のニーズ（食・温泉等）にあった機能の充実が必要 	地域の強みの明確化、周辺観光地との連携・役割分担による戦略的な観光施設整備
	<ul style="list-style-type: none"> ● インバウンド観光や大阪・関西万博を契機とした新たな客層、国内外の観光客の利便性に資する施設整備が必要 ● 近畿圏から遠い、来訪しにくいイメージを解消するような施設整備と施設の魅力発信が必要 ● 市内または淡路島の他の観光施設への滞在を促す情報発信が必要 	国内外の観光客のニーズ、利便性に資する施設整備・情報発信
	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルスなどのパンデミックにも柔軟対応できる施設整備が必要 	新型コロナウイルスなどのパンデミックにも対応した施設整備

3 施設整備コンセプト

上位関連計画などによる計画条件や地域の現状・課題、利用者ニーズ等を踏まえ、整備コンセプトを検討する。

なお、整備コンセプトの検討においては、以下の視点を踏まえて検討する。

- ・ 地域住民の日常的な利用の確保及び促進
- ・ 地理的優位性を活かしたインバウンドを含めた交流人口の拡大
- ・ 優良な農水産物を始めとする地域資源の活用による地域経済の好循環
- ・ 大鳴門橋等のサイクリング道の整備を踏まえた一体的な地域活性化の促進
- ・ 本施設及び周辺環境を踏まえた滞在や定住に繋がる本市の魅力発信

また、整備コンセプトをとりまとめ、本道の駅のキャッチフレーズを設定する。

<コンセプト>

地域が元気になり、南あわじの食と歴史の魅力を発信する拠点づくり～地域で作る魅力とその発信～

- ・ 地域情報や移住定住情報が手に入り、地域住民と地域外住民が交流できる場の提供
- ・ 市民等が新たに参加できる地域活性化拠点としての場の提供
- ・ 地域防災機能の強化
- ・ 継続的な経営や地域貢献等を実現するため、SDGsを意識した拠点を形成

南あわじの自然を五感で感じられる拠点づくり～海峡の眺め、サイクリストの拠点～

- ・ 国立公園や瀬戸内らしい魅力づくりとデザイン（うずしおの展望、屋外キッズランド、グリーンスローモビリティなど環境に配慮した交通機能の導入、芸術の活用、サイクリング専用道路の整備）
- ・ 計画地のポテンシャルを活かした観光目的化の強化とその集客力を活かした市内の他の観光施設への回遊性の強化
- ・ ターゲットに応じた駐車場の提供、近隣施設との連携、駐車場管理システム及び迂回路等を活用した交通渋滞の回避・軽減
- ・ アワイチの中間地としてのサイクルステーション機能の整備

淡路島・四国を訪れる観光客の拠点づくり～観光目的地・中継地化～

- ・ 大鳴門橋周辺エリアの魅力の強化による観光目的地化（新たな道の駅、うずの丘大鳴門橋記念館、駐車場整備等の機能分担による来訪者ニーズに即した施設の魅力化）
- ・ 大鳴門橋に設置される自転車道等の活用による徳島県と連携した回遊性の強化
- ・ インバウンドを含めた交流人口の拡大につながる施設整備、観光情報の提供
- ・ 屋外での楽しみの提供、ソーシャルディスタンスが保てる施設の整備

<キャッチフレーズ>

くるくる うずくる 道の駅

うずがくるくるまわる！

国内外の多くの観光客が**来る**！

サイクル観光に観光客が**来る**！

さらに、市内への回遊を強化することで地域経済が**くるくる**と循環する

関西売り上げ NO1 の道の駅をめざす

4 導入機能

4.1 大鳴門橋周辺エリアの対象範囲

本計画における道の駅の対象範囲（道の駅指定範囲）は旧みさき荘エリア（現道の駅うずしお）とする。

なお、キャッチフレーズ「くるくる うずくる 道の駅」の実現をめざし、近接する笹山駐車場やうずの丘大鳴門橋記念館、新たに必要となる駐車場整備を含めた範囲を大鳴門橋周辺エリアとして設定する。

大鳴門橋周辺エリアは、周辺の観光施設等と相互連携させることで来訪者の利便性や満足度の向上をめざす。

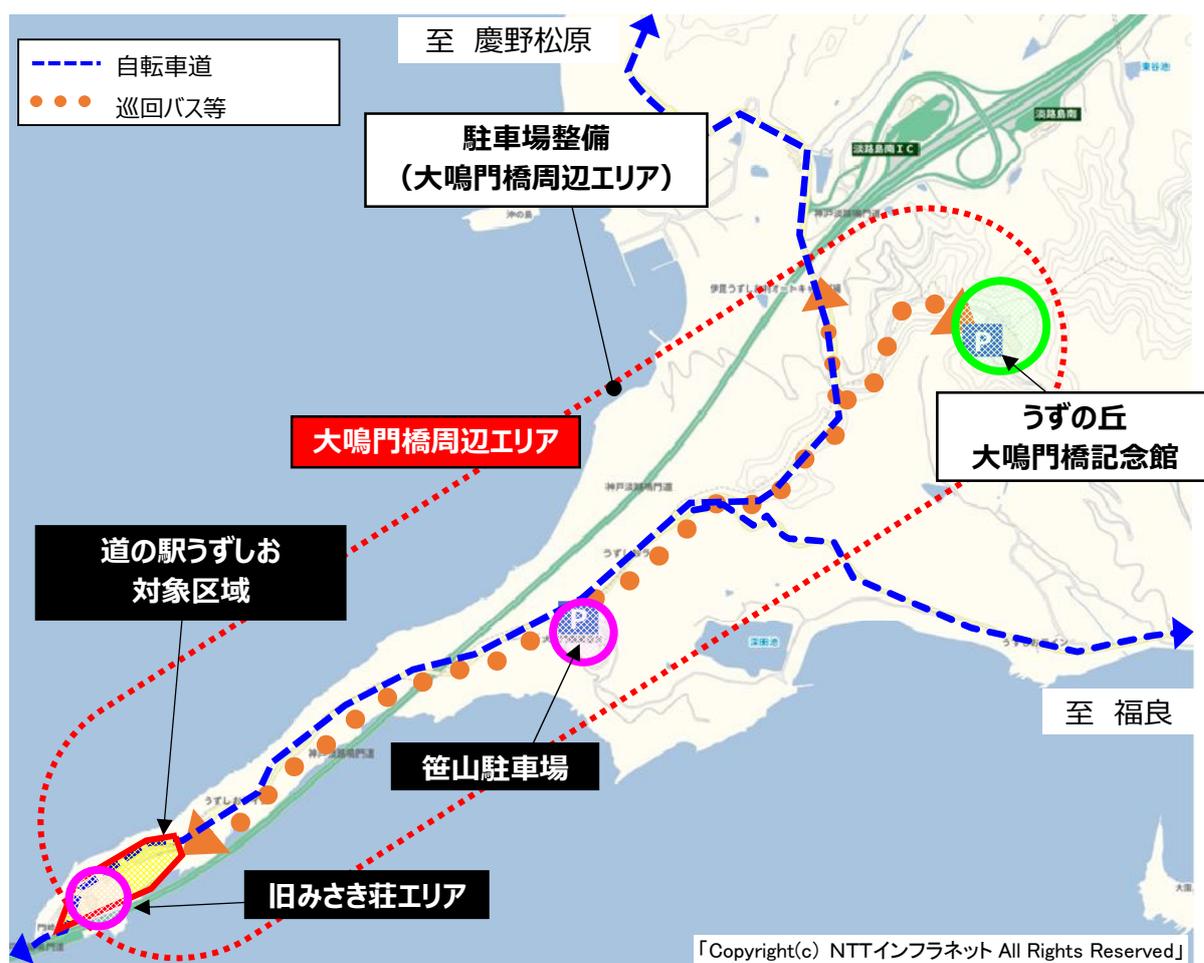


図 4.1 道の駅対象範囲と計画対象エリア

4.2 導入機能の基本的な考え方

導入機能の設定にあたっては、まず、道の駅の基本的な機能である「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」を満たすとともに、周辺の観光施設等と相互連携を図るうえで競合しない機能を配置する必要がある。

さらに大鳴門橋周辺エリアならではの地域特性を踏まえ導入機能を設定する。



出典：国土交通省道の駅案内

図 4.2 道の駅の基本的な機能

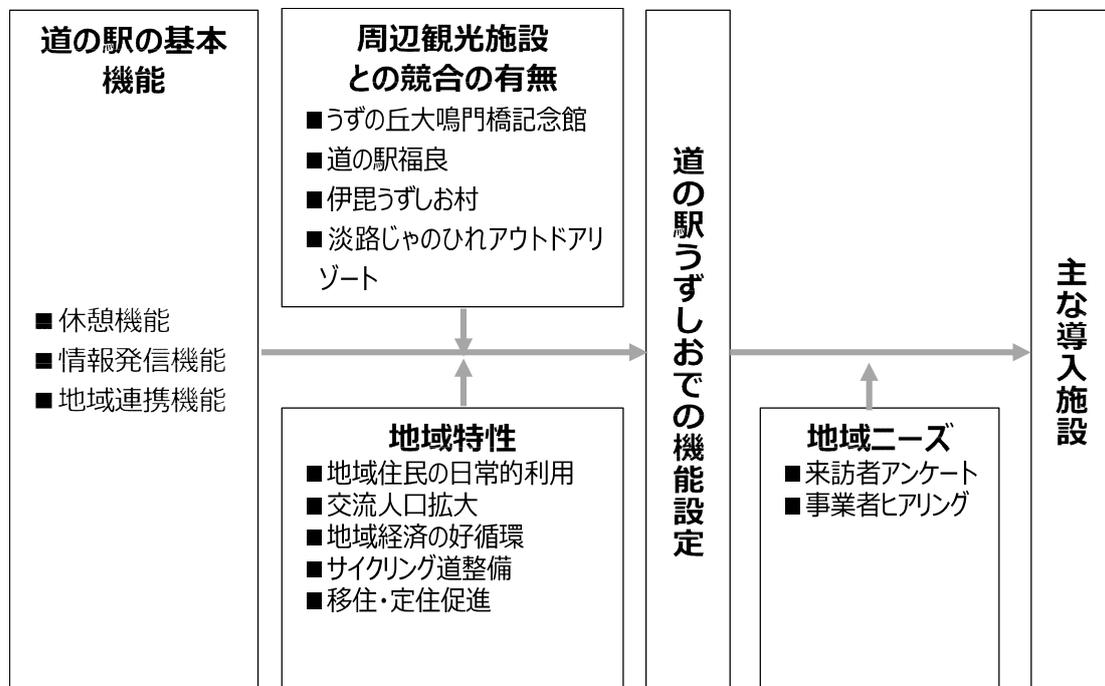


図 4.3 導入機能の設定の流れ

4.3 道の駅と周辺施設との機能分担・連携の考え方

(1) 道の駅周辺施設の機能

本道の駅と周辺施設が競合することなく、相互が連携することにより南あわじ市の観光振興につながるよう留意し、導入機能を検討するため、周辺施設の施設内容について整理する。

表4.1 導入機能及び施設内容

機能	うずの丘 大鳴門橋記念館	道の駅福良	伊毘うずしお村	淡路じゃのひれ アウトドアリゾート
情報発信機能	—	観光案内所	—	—
休憩機能	—	足湯	—	—
地域連携機能	飲食機能	レストラン（魚介類） あわじ島バーガー	レストラン（海産物）	—
	物販・直 売機能	地場産品販売店 （農水産物・加工 品）	地場産品販売店 （農水産物・加工 品）	—
	学習機能	うずしお科学館	淡路人形座	—
	体験機能	展望台 たまねぎキャッチャー	うずしおクルーズ	海水浴・釣り バーベキュー 農業体験 ドルフィンファーム シーカヤック・SUP 乗馬体験 天体観測 等
	宿泊機能	—	—	オートキャンプ場 コテージ
交通拠点機能	—	高速バスの発着場 レンタサイクル	—	—



「Copyright(c) NTTインフラネット All Rights Reserved」

図 4.4 周辺施設位置図

(2) 周辺施設の導入機能の特長と本道の駅への対応

周辺施設の導入機能の特長を整理し、本道の駅での導入機能への対応方針をまとめる。

表4.2 周辺施設の導入機能の特長と本道の駅への対応

機能		周辺施設の特長	本道の駅への対応
情報発信機能		<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅福良に情報発信機能として観光案内所があるが、地域情報や定住促進などの情報発信はされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域情報や定住促進などの情報発信。 ● 周辺に立地している体験施設と連携した体験予約や市内の観光施設やイベントなどの観光情報発信などきめ細やかな観光案内情報発信。
休憩機能		<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅福良では海を眺めながら楽しめる足湯が整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺にあることから、温浴施設・足湯などを整備しない。 ● うずしおが近くに見ることができる展望台など立地特性を活かした展望・休憩スペースを整備。
地域連携機能	飲食機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 飲食機能として魚介類を主としたレストランが設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● あわじ島の食材の活用やうずしおが近くに見える風景を活かしたレストランの設置。 ● おしゃれな café など簡易に食を楽しめる施設の設置。
	物販・直売機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅福良で農水産物・加工品を販売している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農水産物だけではなく、加工品を中心とした土産物販売。 ● 運営時間外でも南あわじ市のお土産品が購入できる物販機能を整備。 ● 新たな加工品を研究・開発するためのラボ施設を設置。
	学習機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 淡路人形、うずしおについて学ぶ施設がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅うずしおに近接するうずの丘大鳴門橋記念館にはうずしおについて学ぶことができる施設があることから本道の駅では施設として整備をしない。
	体験機能	<ul style="list-style-type: none"> ● うずしおクルーズ、海水浴・釣り、シーカヤック・SUP など海洋体験施設や自然公園が立地している。 ● バーベキューなどのアウトドア体験施設も立地している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大鳴門橋に接続している環境を活かした橋上サイクリングなどが出来る体験機能（レンタサイクル等）を整備。 ● 子どもたちも楽しめる施設とするため、国立公園の環境を活かしたフィールドアスレチック等を整備。 ● 瀬戸内海国立公園という良好な自然環境を活かしたネイチャーツアーなどの体験機能を整備。
	宿泊機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 伊弉うずしお村、淡路じゃのひれアウトドアリゾートでキャンプ場、コテージなどの宿泊施設が整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本道の駅は立ち寄り型施設として整備するため、宿泊機能は導入しない。
交通拠点機能		<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅福良では高速バスの発着場、レンタサイクルが整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本道の駅とうずの丘大鳴門橋記念館、新たな駐車場を巡回するバスや自転車、新たなモビリティなどの発着地を整備。 ● 道の駅福良など周辺観光施設への巡回バスの発着地を整備。

※水色でハッチしている機能は本道の駅では導入しない機能

4.4 導入機能と主な導入施設

地域が元気になり、南あわじの食と歴史の魅力を発信する拠点づくり

表4.3 導入機能と導入施設

導入機能	導入施設イメージ	導入施設・規模	設置場所
情報発信機能	<ul style="list-style-type: none"> 淡路島の観光地（周辺施設、地域のイベント）などの地域情報が紹介されているガイド・パンフレット（多言語での作成）やデジタルサイネージの設置 お土産のネット販売（家庭までの配送）、観光地までのアクセス情報発信等におけるインターネットの活用（WiFi機能の導入等） お土産コンシェルジュや語り部（観光ガイド）等利用者のニーズに合わせた観光案内 	○地域情報発信案内所（50㎡）	旧みさき荘
地域連携機能	飲食機能 <ul style="list-style-type: none"> 地元食材（海・山の産物）を活用した付加価値の高いレストラン 海峡の景色を眺めながら、ゆっくりと食事を楽しむことができる飲食スペース 	○うずしおを眺められる地元食材レストラン（500㎡）	旧みさき荘
	<ul style="list-style-type: none"> 海峡や大鳴門橋を間近に見ながら、軽食（バーガー等）や喫茶を楽しむ空間 あわじ島バーガーを楽しめる売店 	○あわじ島バーガーショップ（170㎡）	旧みさき荘
	チャレンジショップ機能 <ul style="list-style-type: none"> 地域食材を使ったメニューや加工品等の販売ができるチャレンジショップの場を整備 様々なイベントや催し物等が開催できる屋内スペースを整備 	○多目的ホール（150㎡）	旧みさき荘
	テナント機能 <ul style="list-style-type: none"> 地域食材を使ったメニューや加工品等のテナントを出店できるスペースを整備 市外の事業者も出店可能 テナントによって不足した駐車場は必要に応じて立体駐車場の整備を検討 	○テナントスペース（約1,000㎡） ○立体駐車場（必要に応じて検討）	笹山駐車場
屋外イベント広場機能 <ul style="list-style-type: none"> 屋外において様々なイベントや催し物等が開催できる屋外スペースを整備 キッチンカー等を設置することも可能な屋外スペース 	○屋外イベント広場（700㎡）	旧みさき荘	
防災拠点機能	非常用電源設備 <ul style="list-style-type: none"> 電力供給が断絶しても被災期間中の電力を供給する設備 再生エネルギー等を活用するなどにより、地域が停電しているなかでも、携帯電話等を充電できるコンセント等を整備 	○自家発電機（屋外又は移動式） ○太陽光発電システム（屋根設置）	旧みさき荘
	耐震性貯水槽 <ul style="list-style-type: none"> 一定量の給水を貯蓄し、給水本管の断絶に備え被災期間中の給水を確保 	○貯水槽（屋外設置）又は備品	旧みさき荘
	非常用便所 <ul style="list-style-type: none"> 使用水量を削減し、被災期間中にも利用可能な便所等の設置 	○マンホールトイレ等	旧みさき荘
	非常用通信設備 <ul style="list-style-type: none"> 発災時においても多様な手段で重要機関等との情報共有や連絡ができる設備 	○非常用通信設備等（備品）	旧みさき荘
	備蓄施設 <ul style="list-style-type: none"> 被災期間中の避難者等への食料・生活用品等や復旧活動用品等の備蓄 	○防災備蓄倉庫	旧みさき荘

南あわじの自然を五感で感じられる拠点づくり

表4.4 導入機能と導入施設

導入機能		導入施設イメージ	導入施設・規模	設置場所
地域連携機能	体験機能	<ul style="list-style-type: none"> ロー・ミドルユーザーを対象とした大鳴門橋（四国＝鳴門市、東かがわ市）による連絡や南あわじ市周遊など、比較的短い距離で初心者や家族が楽しめるレンタサイクル おしゃれな電動アシスト（E-BIKE）の配置 サイクリング情報発信等 	○レンタサイクルポート（受付・屋根付駐輪場）（各 30 m ² ）	旧みさき荘 笹山駐車場 新設駐車場
	キッズランド機能	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自然公園を体験できるフィールドアスレチックを整備 買物待ちの時間帯に子どもたちがうずしお等を遊びながら学べる屋内キッズスペース 	○屋外キッズスペース（1,000 m ² ） ○屋内キッズスペース（50 m ² ）	旧みさき荘
	芸術・ネイチャー体験機能	<ul style="list-style-type: none"> 瀬戸内は瀬戸内芸術祭が開催されるアートの聖地であるため、笹山駐車場～旧みさき荘の道路をアート（インバウンドにも寄与）で楽しめる空間として整備 アーティストに一定期間滞在してもらい、指定された場所にうずしお等をテーマとした芸術品を製作し、展示（実施においては実効性を牽引するキーマンの登用が必要） 旧みさき荘・笹山駐車場・大鳴門橋記念館～道の駅福良までの近畿自然遊歩道を再整備し、国立公園の自然・歴史や海の景色を堪能できるウォーキングコースを整備 中間地点付近にトイレや木陰空間がある簡易休憩施設を整備 	○芸術ストリート（旧みさき荘～笹山駐車場） ○簡易休憩施設（20 m ² ） ○近畿自然遊歩道の再整備（旧みさき荘～道の駅福良）	旧みさき荘～ 笹山駐車場 （道の駅福良）
サイクリング支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ハイユーザーを対象としたアワイチを楽しむなど、長距離サイクリストを支援するサイクルステーション（アワイチの南の拠点としての地位の確立） メンテナンス機材の設置、荷物預かり、サイクリング始発点としての機能、サイクリング情報発信等 大鳴門橋に整備される自転車道等を活用し、対岸に位置する徳島県と連携した回遊性の強化支援（横断周遊船等の活用支援） 	○サイクルステーション（休憩室、更衣室・シャワールーム、修理室、自転車置場等）（各 150 m ² ） ○広域情報発信案内所（地域情報発信案内所で兼用）	旧みさき荘 新設駐車場	
駐車場機能	<ul style="list-style-type: none"> 地元および観光客の利用を想定した駐車場 	○駐車場 ○身障者用駐車場（屋根付）（旧みさき荘） ○駐輪場	旧みさき荘 笹山駐車場 新設駐車場	
交通拠点機能	<ul style="list-style-type: none"> 観光客や地元住民が周辺施設を周遊利用しやすいバス等の交通施設を用意 各駐車場から施設への周遊を支援するバスや自転車、新たなモビリティ（セグウェイ、電動キックボード）などの発着地 	○バスロータリー ○待合所（各 50 m ² ） ○バス停（1台）	旧みさき荘 笹山駐車場 新設駐車場	

淡路島・四国を訪れる観光客の拠点づくり

表4.5 導入機能と導入施設

導入機能	導入施設イメージ	導入施設・規模	設置場所
情報発信機能（定住促進）	<ul style="list-style-type: none"> 災害時を含めた居住者への情報発信 移住定住に関する情報提供等 	○地域情報発信案内所で兼用	旧みさき荘
休憩機能	<ul style="list-style-type: none"> 風景を眺めながら休憩したり、あわじ島バーガーやチャレンジショップの飲食等が可能 	○イートインスペース（150㎡）	旧みさき荘
	<ul style="list-style-type: none"> 風景を眺めながら休憩したり、ゆっくり時間を過ごしたりできる広場・ベンチ 	○屋上展望スペース（300㎡）	旧みさき荘
	<ul style="list-style-type: none"> 大鳴門橋や海峡をバックに写真撮影ができる撮影スポットを整備 エントランス部分に道の駅うずしおにきたことが分かりやすい撮影スポットを整備 	○撮影スポット（屋外：15㎡） ○撮影スポット（屋内：15㎡）	旧みさき荘
	<ul style="list-style-type: none"> 清潔で利便性が高く、立ち寄りたくなる便所 ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい便所 	○トイレ（拠点180㎡、笹山10㎡、新設駐車場50㎡） ○授乳室（20㎡）（旧みさき荘）	旧みさき荘 笹山駐車場 新設駐車場
地域連携機能（物販・直売機能）	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特産品や加工品などの品数をそろえた土産物販売施設 地域の特産品や加工品などの品数をそろえた土産物販売施設の倉庫等（販売品のストック可能な温度管理機能付きの倉庫等） 	○土産物販売スペース（320㎡） ○土産物販売倉庫（50㎡）	旧みさき荘
	<ul style="list-style-type: none"> お土産品等を購入し、その場で自宅や友人宅等に送付できる受付 	○発送受付（土産物販売スペース内に設置）	旧みさき荘
	<ul style="list-style-type: none"> 淡路島の食材を活用した料理体験学習の実施 淡路島の食材を活用したデザート品の製造過程を見せるショールーム 地元食材等を活用した新たなお土産品等の研究・開発及び製造を実施 	○多目的加工所（30㎡）	旧みさき荘
	<ul style="list-style-type: none"> 従業員のワークライフバランスや利用者の利便性向上のため、休業日や夜間においても継続的に特産品が購入できる自動販売機群を設置 	○自販機マルシェ（待合所等で兼用）	旧みさき荘 笹山駐車場 新設駐車場

その他

表4.6 導入機能と導入施設

導入機能	導入施設イメージ	導入施設・規模	設置場所
管理機能	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅を管理・運営するための施設 	<ul style="list-style-type: none"> ○事務室（50㎡） ○会議室（50㎡） ○更衣室（20㎡） ○休憩室（20㎡） ○従業員専用トイレ（10㎡） ○倉庫（20㎡） ○駐輪場（20台） 	旧みさき荘

5 駐車需要規模の算定

現状の道の駅うずしお、大鳴門橋記念館は多くの一般客に利用されている状況であるが、本検討におけるリニューアルにより、更なる集客が図られると考える。

一方、アワイチをはじめとした淡路島全体での自転車振興により、現状でも多くのサイクリストが立ち寄っている状況であるが、大鳴門橋の自転車道整備が実施されることで、自転車走行を目的とした利用が更に増加するものとする。

上記の内容を踏まえ、現状から将来への駐車需要の変化は下図となり、駐車需要の大幅な増加が想定できることから、駐車需要に応じた大鳴門橋周辺エリアでの整備が必要である。

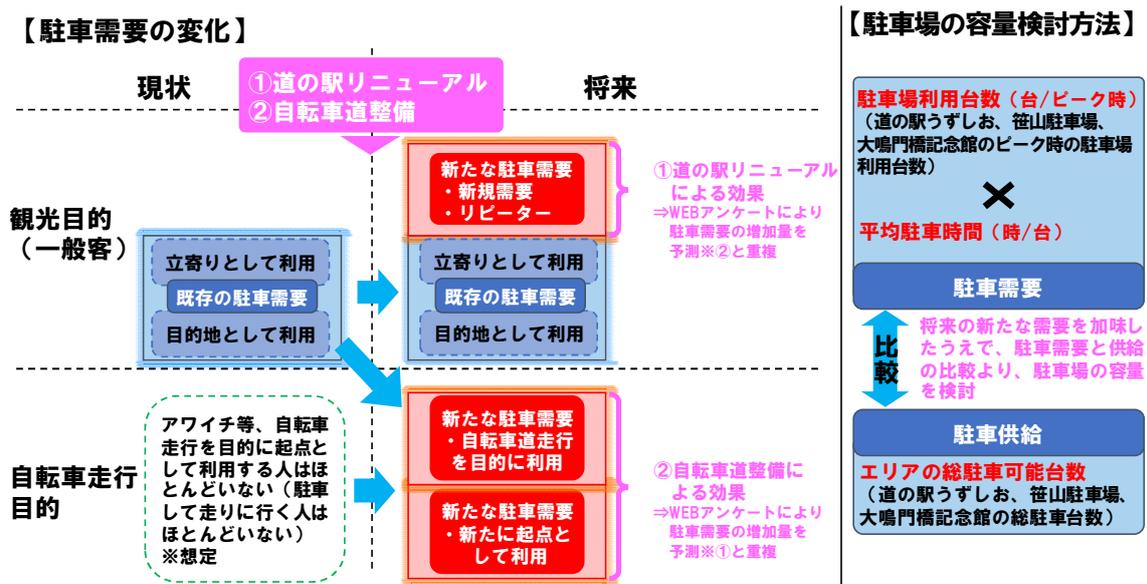


図 5.1 駐車需要の変化と駐車場の容量検討方法

(1) 駐車需要の推定フロー

駐車需要の推定フローを下図に示す。将来の駐車台数の推定に際しては下図の通り分類したうえで、将来の行動変更意向・頻度より、駐車台数を推定した。

推定に際しては、大阪府、兵庫県、徳島県居住者を対象に実施した WEB アンケート調査を用いており、また、推定の妥当性を確認するため、実際の施設来訪者と推定による施設来訪者数を比較・補正したうえで、将来の駐車需要を算出している。

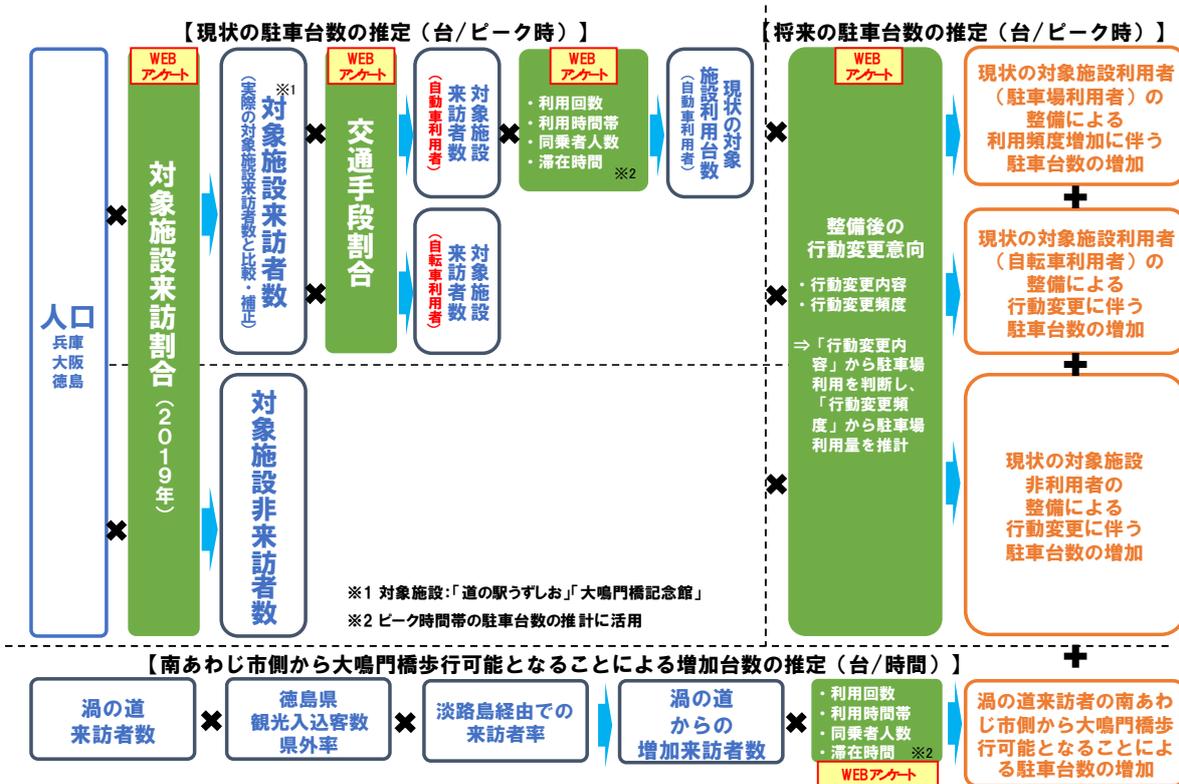


図 5.2 駐車需要の推定フロー図

(2) 将来の施設配置状況

対象施設のピーク時期の駐車場混雑状況より、ピーク日を3パターンに分けて算定した。

- ・ パターン A：通常の休日相当
- ・ パターン B：三連休やお盆休み等の特に利用の多い休日相当
- ・ オフピーク：上記以外



「Copyright(c) NTTインフラネット All Rights Reserved」

図 5.3 将来の施設状況

(3) 将来の駐車需要の算定

各パターン別に駐車需要を算定すると下図となる。

道の駅うずしお及び大鳴門橋記念館の駐車場の増設をしたとしても、パターン A（通常の休日相当）における将来の駐車容量に対し、駐車需要の方が多くなっており、駐車場が不足すると思われる。

したがって、大鳴門橋周辺エリア内において、新たな駐車場整備が必要である。また、ソフト対策等によるピーク時の需要対策（空間分散、時間分散、他モード転換、効率的運用等）が必要である。

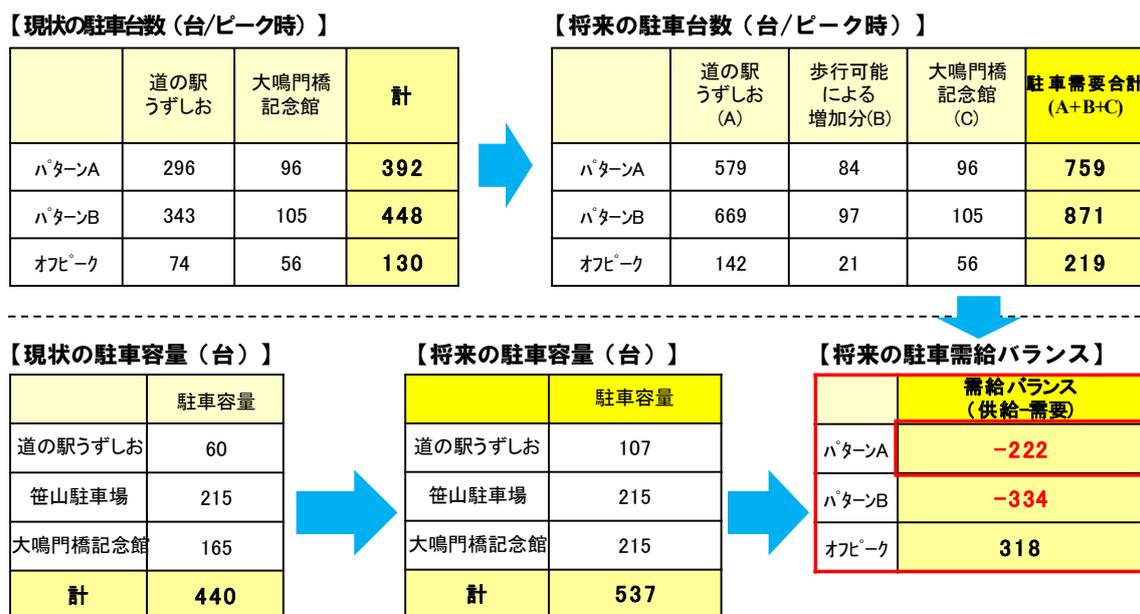


図 5.4 将来の駐車需要の算定結果

6 ゾーニング計画

ゾーニングにおいては、対象エリア内の施設や周辺観光施設との機能分担、施設間連携に留意するとともに、利用者ニーズ等を踏まえ整理する。

道の駅の基本機能である情報発信機能、休憩機能、地域連携機能のほか、本施設及び周辺環境のポテンシャル等を活用したサイクリング支援、交流人口増加、防災拠点等を効率的に導入できるゾーニングとする。

なお、対象エリアの各拠点は以下のように位置づけ、機能分担を図る。

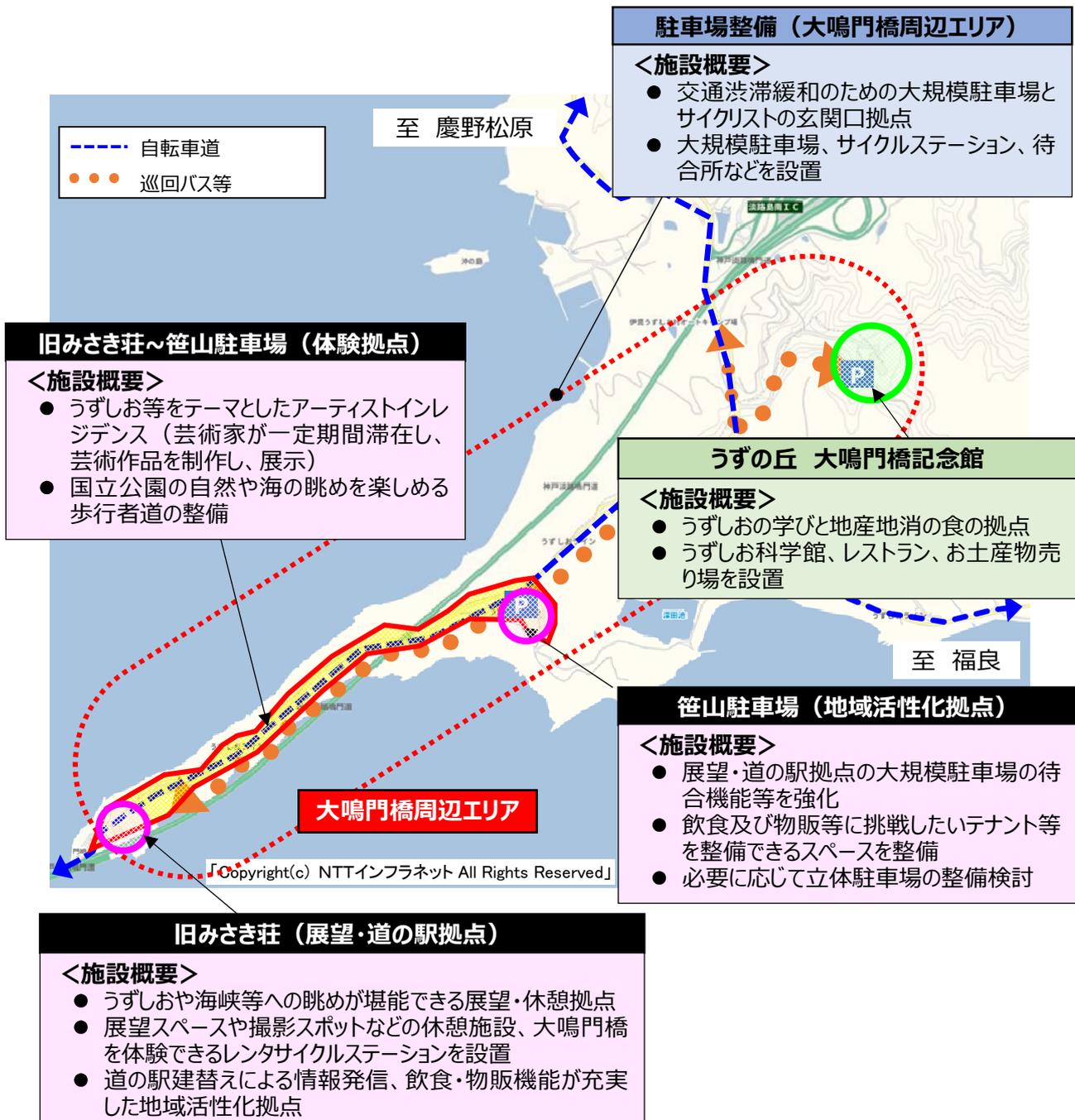


図 6.1 ゾーニング計画図

7 施設計画

7.1 旧みさき荘エリア

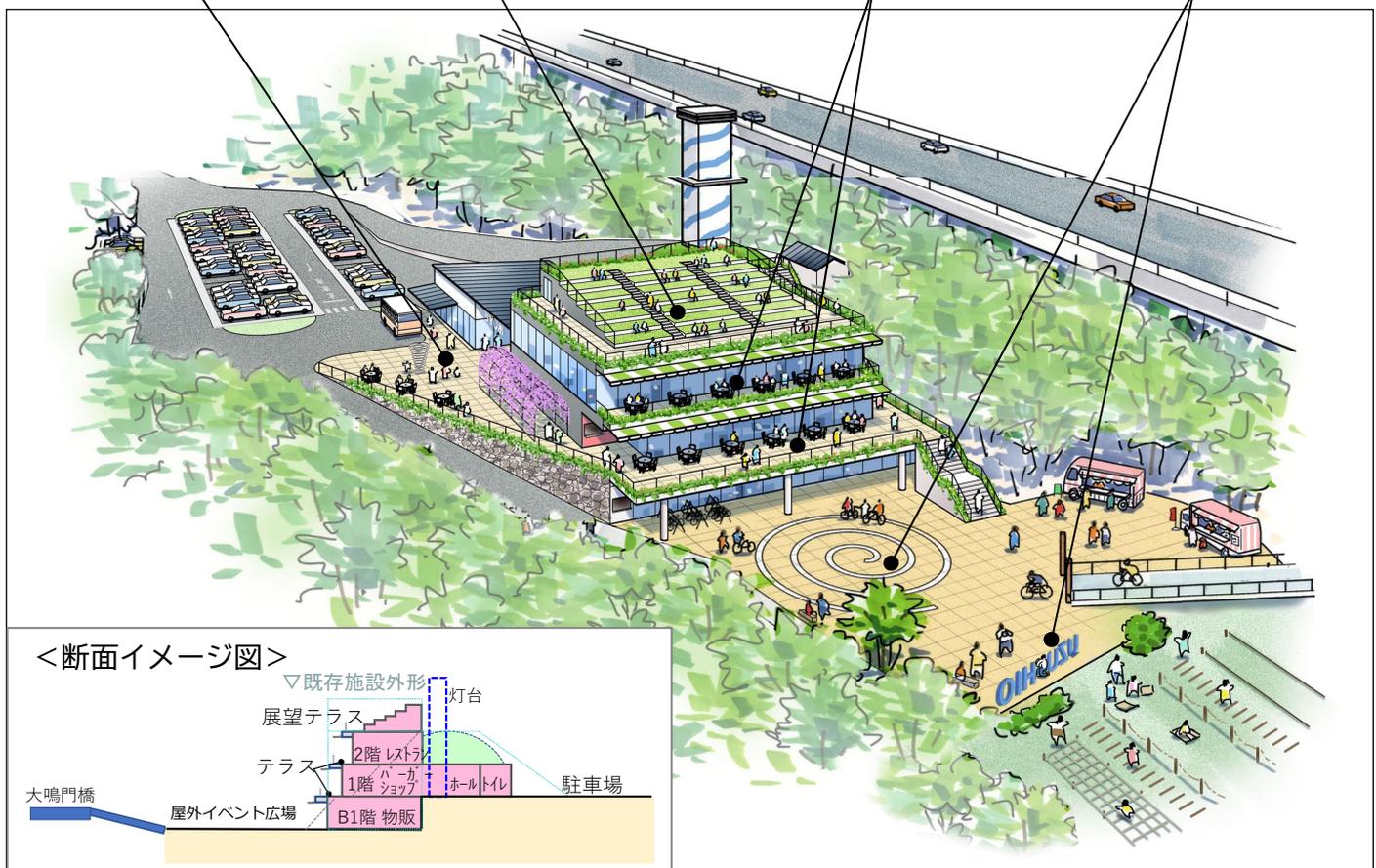
7.1.1 旧みさき荘エリアの施設計画の整備方針

大鳴門橋周辺エリア等の現状や導入機能等との整合性を踏まえた旧みさき荘エリアの整備方針は、以下のとおりとする。

- 地域振興施設である道の駅としての機能性や利便性を高められる施設を整備するとともに、利用者や従業員等が快適に利用できるゾーニング及び動線計画となる施設を整備する。
- 当該計画地のポテンシャルである国立公園の自然環境やうずしお等を活かし、新たな改変は極力行わない計画とするとともに、可能な範囲で国立公園にふさわしい豊かな自然環境の再生に寄与できる計画とする。
- 当該エリアは、大鳴門橋に整備される自転車道の拠点となる位置に整備することから自転車道の利用を促す施設を整備する。

7.1.2 旧みさき荘エリアの施設整備イメージ

<p>■エントランスの整備 バスターミナルからスムーズに建物内にアプローチできるようにバリアフリー化を図る。 バスターミナルと建物間に広場スペースを整備することで、エントランスとしての空間を整備する。</p>	<p>■自然環境への配慮 うずしおの絶景確保のため、現在の建物位置に新しい建物を整備する。 建物は既存高以下にする。とともに、屋上緑化や建物周囲への防風林の設置により、外部からの景観は自然環境の再生に寄与するデザインとする。</p>	<p>■眺望への配慮 海側への眺望に配慮し、海側の眺望を確保できる位置にバーガーショップやレストランを配置する。 屋上や各階には海側が眺望できるテラススペースを整備し、多くの利用者が眺望を楽しめる環境を提供する。</p>	<p>■フォトスポットの整備 記念撮影スポットとなるような「うずまき」やオブジェ「UZUSHIO」をうずしお及び大鳴門橋が写真におさまる位置に配置する。 文字一部の「S」等を人型で表して完成する仕掛けを施したモニュメントを整備する。</p>
---	---	---	---



■**広場**

駐車場と建物の間に広場を配置し、イベント利用に活用し、施設の入口で賑わいを演出する。

■**開放的なエントランス**

ガラス面を活用したエントランスとすることで、建物内の特産物の様子や賑わいを確認できる。また、エントランスに面して広場を設置しているので様々なイベント開催が可能である。

■**待合所**

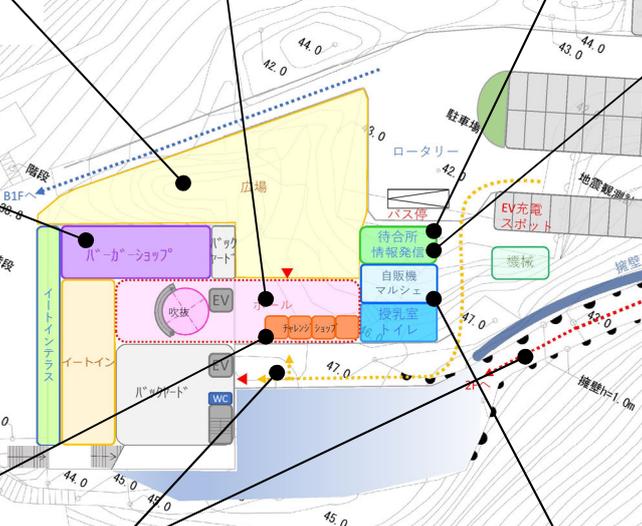
笹山駐車場からの巡回バスの待合所をバス停に隣接して整備する。バスの発着を視認しやすいようガラス張りとする。

■**地域情報発信センター**

待合所に併設した、道路情報や観光情報等の情報を発信する地域情報発信センターを經由してトイレにアクセスする動線とする。

■**バーガーショップ**

集客力のあるバーガーショップは建物入口近くに配置するとともに、屋内及び屋外のイートインを配置し、うずしおの景観を楽しみながらバーガー等を楽しめる空間を整備する。



■**新たな駐車場スペース**

現状の小山を岩掘削し、新たな駐車場スペースを整備する。

<1階平面イメージ図>

■**チャレンジショップ**

地元食材での飲食や加工品等の販売にチャレンジできるスペースを用意する。



■**バックヤード動線の確保**

飲食施設や特産物販売施設のバックヤード動線を利用者動線とは区別して整備する。

■**自販機マルシェ**

待合所に居る時にも利用できる自販機マルシェを整備する。施設の休館日や非営業時間帯等においても、地元の特産物を購入できるように多種多様な自販機を整備する。

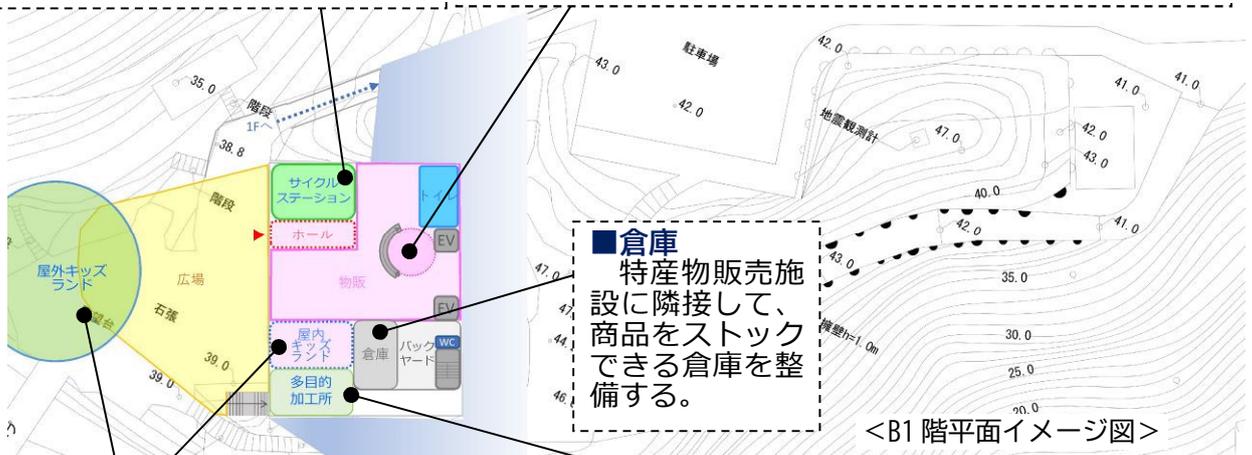
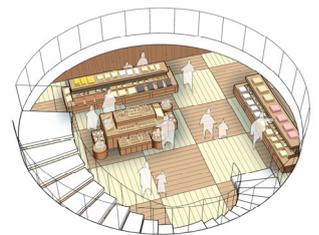


■**サイクル施設**

サイクリストは主に大鳴門橋の連絡橋からのアプローチとなるため、連絡橋に近い位置に、サイクル関連施設である修理室、更衣室及び自転車置場等を整備する。アワイチに向かう動線は建物の北側のスロープ部を確保する。

■**全ての階をつなぐ吹抜スペースの整備**

1階及びB1階からアクセスした利用者に、各階の賑わいを感じさせ、別フロアにも自然と足が向く仕掛けとして吹抜スペースを整備する。



■**倉庫**

特産物販売施設に隣接して、商品をストックできる倉庫を整備する。

<B1階平面イメージ図>

■**キッズランドの整備**

子どもたちも楽しめるように自然公園の環境を活用した屋外キッズランドを整備するとともに屋内キッズランドを整備する。

■**多目的加工所の整備**

地元の食材で、缶詰、お菓子及び焼き物等の加工食品を製造する過程を見せることができる多目的加工所を整備する。加工所は、お菓子、缶詰及び生鮮食品等を扱えるように3室整備する。

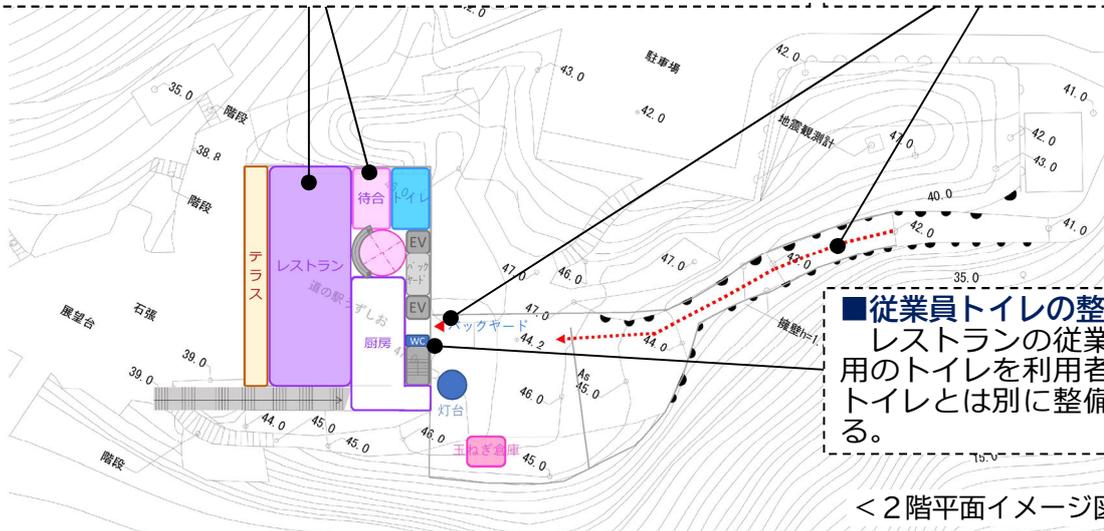
■うずしおの眺望が楽しめるレストラン

うずしお及び大鳴門橋方面を見渡せる最上階に、ゆっくりと食事ができるレストランを配置する。混雑時に配慮し、入口部分に待合スペースを整備する。



■バックヤード動線の確保

レストランのバックヤード動線として、既存の藤棚ルートを活用する。バックヤード動線に隣接して、玉ねぎの泥落とし等を行う倉庫を整備する。



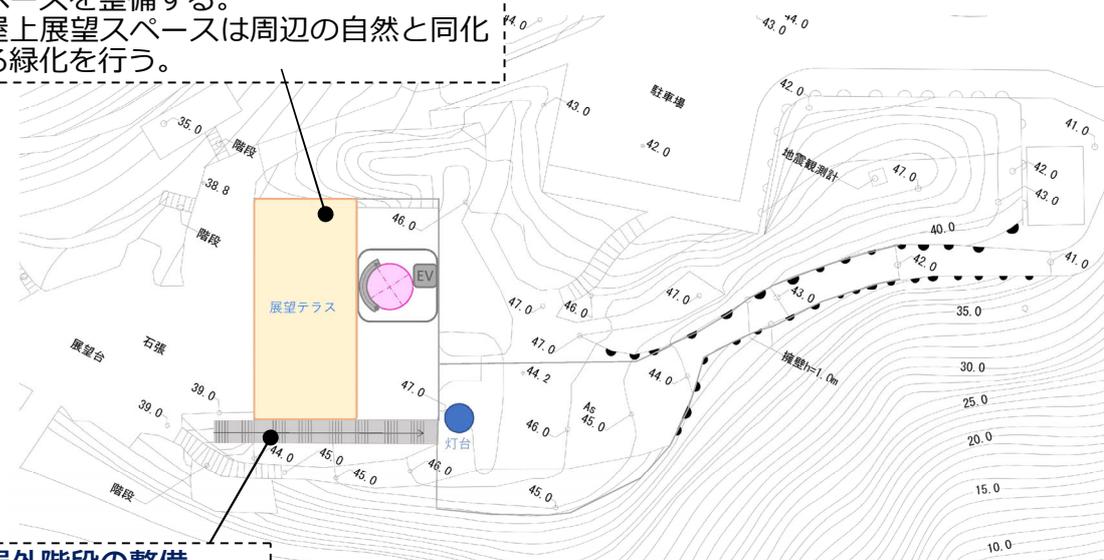
■従業員トイレの整備

レストランの従業員用のトイレを利用者用トイレとは別に整備する。

<2階平面イメージ図>

■屋上展望スペース

大鳴門橋やうずしおが展望できる展望スペースを整備する。屋上展望スペースは周辺の自然と同化する緑化を行う。



■屋外階段の整備

B1階の広場から屋上階の展望テラスまで連続する屋外階段を整備する。

<屋上平面イメージ図>

7.2 旧みさき荘～笹山駐車場エリア

7.2.1 旧みさき荘～笹山駐車場エリアの施設計画の整備方針

大鳴門橋周辺エリア等の現状や導入機能等との整合性を踏まえた旧みさき荘～笹山駐車場エリアの整備方針は、以下のとおりとする。

○瀬戸内は瀬戸内芸術祭が開催されるアートの聖地であるため、アーティストに一定期間滞在してもらい、指定された場所にうずしお等をテーマとした芸術品を製作し、展示することで旧みさき荘～笹山駐車場の移動を楽しめる空間とする。

○歩行距離が1 km程度となるため、中間部にトイレ等の休憩施設を整備する。

○地域振興施設から笹山駐車場を繋ぐ道路の両側に繁茂している樹木等の剪定を行い、国立公園の自然環境や海の眺めを堪能できる歩行者空間を整備する。

7.2.2 旧みさき荘～笹山駐車場エリアの施設整備イメージ



7.3 笹山駐車場エリア

7.3.1 笹山駐車場エリアの施設計画の整備方針

大鳴門橋周辺エリア等の現状や導入機能等との整合性を踏まえた笹山駐車場エリアの整備方針は、以下のとおりとする。

- 展望・道の駅拠点の大規模駐車場を整備するとともに、循環バスに乗車する利用者の待合機能やちょっと買いのできる自販機マルシェ等を整備する。
- うずしおの集客力を活かし、新たに飲食及び物販等に挑戦したい方にチャンスを提供できる海が見えるテナントスペースを確保する。
- テナントの集客力や駐車場のピーク時間帯などを踏まえ、必要に応じて立体駐車場の整備についても随時、検討を実施する。

7.3.2 笹山駐車場エリアの施設整備イメージ

■眺望への配慮

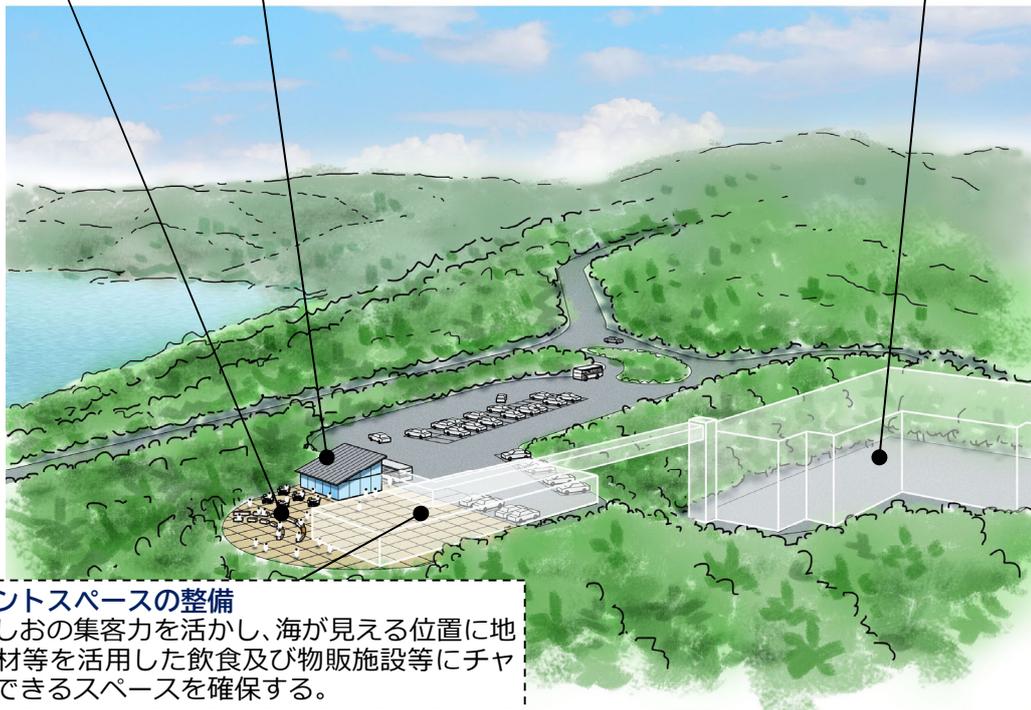
海側（うずしお）への眺望に配慮し、海側の眺望を確保できる位置に展望テラスを配置し、多くの利用者が眺望を楽しめる環境を提供する。

■国立公園への配慮

新たな改変を行わないため、現在の建物位置に新しい建物を整備する。建物は低層にするとともに、勾配屋根とすることで、自然公園内に相応しいデザインとする。

■立体駐車場の整備検討

テナントスペースの整備に伴い、更なる駐車場整備が必要となる場合は立体駐車場の整備を検討する。必要に応じて立体駐車場を整備する。



■テナントスペースの整備

うずしおの集客力を活かし、海が見える位置に地元の食材等を活用した飲食及び物販施設等にチャレンジできるスペースを確保する。

■待合所の整備

現状では日陰空間のない場所で循環バスを待っているため、日陰空間やトイレ休憩が可能となる待合所を整備する。

■自販機マルシェの整備

待合所には無人販売できる自販機マルシェを整備し、お土産品等の買い忘れ等に対応できる施設を整備する。



7.4 新設駐車場エリア

7.4.1 新設駐車場エリアの施設計画の整備方針

大鳴門橋周辺エリア等の現状と導入機能等との整合性を踏まえた新設駐車場エリアの整備方針は、以下のとおりとする。

- 道の駅うずしおの利用者による交通渋滞緩和のための大規模駐車場を整備する。
- 駐車場管理システムを整備し、笹山駐車場や大鳴門橋記念館駐車場等と連携を図るとともに、笹山駐車場付近に迂回路を整備することで効率的な駐車場の運営を実施する。
- 長期間滞在するハイユーザーのサイクリスト用のサイクルステーションを整備するとともに、待合所及びちょっと買いのできる自販機マルシェなどを設置する。

7.4.2 新設駐車場エリアの施設整備イメージ



8 本施設の利活用による地域振興方策の検討

8.1 基本的な考え方 ～地域・施設が能動的に仕掛ける対策～

利活用の方策(イベント等のソフト対策や広告宣伝方法等)が実質的に機能するためには、地域や施設が自ら企画し、実行する能動的な対応が不可欠である。こうした基本的な考え方のもと、利活用の方針・方策を以下に整理する。

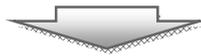
8.2 広告宣伝・イベント等の企画・運営に関する提案

運営体制、広告宣伝、ターゲットに応じた情報提供については、ヒアリング結果や Web アンケート結果を踏まえ、以下のとおりに整理する。

8.2.1 運営体制

<現状>

- 道の駅うずしお及び周辺において、広告宣伝等の主体は、観光協会、個別施設等で独自に実施されている現状にある。
- このような個々での取り組みでは、発信力に限界がある(発信のノウハウの有無、得意・不得意)だけでなく、また、観光客にとっても利用しづらい。



<運営体制のイメージ>

- 地域で広告宣伝・イベント等を企画・運営する機能(連絡組織等)が求められる。既存の組織の連携や、新たな就業者(移住された起業家など)をメンバーに、道の駅うずしおのリニューアルがそのきっかけになれば有効である。
- ここで、企画・立案し、統合的に発信することが有効である。

8.2.2 広告宣伝

(1) 周辺施設・広域連携による広告宣伝

<現状>

- 南あわじ市自身が、淡路島の中で観光客の来訪が少ない状況にある。
- 一方で、通行料金の要因も含め、南あわじ市は、淡路島観光の目的地となるポテンシャルを有している。



<周辺施設・広域連携による広告宣伝>

- 道の駅単体や周辺施設のみの魅力をアピールするより、市内他市の誘客力を活かし、例えば淡路島全域まで一体となった PR により、発信するメニューのバリエーション、スケールメリットを増大させることが有効である。

【具体的な方策】

- ・ 島内各地の施設や団体等から情報を収集し、一体的な広報媒体を作成する。(あくまで当地区への誘客が目的であり、当地区が目的地、主要立ち寄りポイントとなるように、仕立てることが重要)

【事例: 奈良県五條市】

- ・ 奈良県五條市では、市町村合併により、市の範囲(面積)が広域に広がっている。
- ・ 観光誘客を図るため、市内の様々な施設、団体等から情報を収集し、市域全体をPRする冊子を作成
※現在は行われていないが、公共・民間問わず、旬な情報を一元化したパンフレット(イベントカレンダー)を季節に合わせて発刊していた。

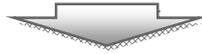
(参考 URL http://www.gojo.ne.jp/yamato/ikukan_course.html)

展開の例

- ・ 淡路島では淡路島観光協会において、淡路島の情報を統合的に発信している。
- ・ こうしたバックグラウンドを活用しつつ、南あわじの島南端としての立地を生かし、淡路島南端を出発点・終着点、主要な立ち寄りスポットとして、周遊プランを提案していくことも有効と考えられる。

(2) 季節に応じた旬な情報提供**<現状>**

- 南あわじ市には、通年での魅力資源があるものの、現状のPR、来訪者は、季節によって隔たりがある。
- 観光誘客としての視点からは、季節変動を少なくする方策が求められる。(年間を通じた地域への収入の確保の面からも有効)

**<季節に応じた旬な情報提供>**

- 季節に応じた、旬な情報を提供することが有効である。

【具体的な方策】

- ・ 季節ごとの情報を提供するPR媒体の作成(カレンダー的に、いつ、どこで、何があるかをPR)

【事例: 立山黒部アルペンルート】

- ・ 立山黒部アルペンルートでは、「楽しみ方ナビゲート」として、様々なテーマ(コンテンツ)を提案している。
 - 自然を楽しむ
 - 歴史を楽しむ
 - 乗物を楽しむ
 - カメラを楽しむ など
- ・ 特に「自然を楽しむ」では“四季を楽しむ 見頃カレンダー”を公開し、旬な情報を提供している。
 - ・ (参考 URL https://www.alpen-route.com/enjoy_navi/)

展開の例

- ・ 淡路島や南あわじのコンテンツは、“歴史・文化”“体験・学び”“温泉”“食”などに代表される。(淡路島観光ナビ等による)
- ・ 季節性のある食(ハモ、フグ等)や、通年で楽しめる歴史・文化などの組み合わせで、タイムリーな情報、かつ、季節変動を回避するコンテンツの発信力の強化を行うことが考えられる。

(3) ターゲットに応じた情報提供

<現状>

- コロナ禍を経た情勢もあり、従来の団体ツアー等の旅行形態から、ターゲットの変容が求められる。(客単価をあげることも必要となる)



<ターゲットに応じた情報提供>

- 来訪目的を明確にした、少人数対応型の PR も重要となる。

【具体的な方策】

- ・ アワイチ、大鳴門橋自転車道整備をアピールした自転車の拠点（中継地）としての PR、うずしおの景観、海のアクティビティ、インフラツーリズム（大きな橋を見せる）など

【事例：自転車ポータルサイト：TABIRIN】

- ・ 自転車の統合ポータルサイト TABIRIN では、様々なサイクリングのコース紹介のほか、サイクリングの楽しさを、実際に走行した人が記事にして紹介するなど、自転車を利用者目線で楽しめる情報発信を行っている。

(参考 URL <https://tabi-rin.com/>)

展開の例

- ・ アワイチという有力なコンテンツを活かし、サイクリストにターゲットを絞った PR が考えられる。



淡路島のキャンプ場でリゾート気分を味わおう～離島ならではのサイクリングの楽しみ方も紹介

DATE: 2020.11.20 CATEGORY: 観光・地域情報



TABIRIN における淡路島の記事

(4) イベント等

<現状>

- 道の駅うずしおの利用者は、現在、滞在時間が短く、休憩・買物的な利用が主になっている。
- 来訪者の増大（収益拡大）に向けては、滞在時間の増加という視点も一つの手段と考えられる。



<イベント等>

- 道の駅うずしお周辺、多岐にわたる魅力資源が存在する。これらをつなぎ合わせてストーリー化し、イベントメニュー等を構築することが有効と考えられる。

【具体的な方策】

- ・ 食の提供×ネイチャーツーリズム（海のアクティビティ）、地場食マルシェの開催など
- 地域資源を活用したイベント等が全国各地で展開されている中、競争力を発揮するには、他に無い目新しいものを旗印にすることも有効と考えられる。（技術の進展に応じた将来的な施策を見据えた、実験的な取り組み）

【具体的な方策】

- ・ ドローンによるうず潮観察、自動運転バスや超小型モビリティの導入検討のための実証実験 など

9 事業スケジュールの検討(案)

前述した施設計画やゾーニング及び動線計画を踏まえた事業スケジュール(案)は以下のとおりである。なお、以下の事業スケジュール(案)の事業手法は、従来方式として設定している。

大項目	中項目	小項目	工事完了 ↓ ↓ 万博開催							備考				
			R1 2020	R2 2021	R3 2022	R4 2023	R5 2024	R6 2025	R7					
調査・設計 (旧みさき荘等)	基本構想・基本計画	発注手続き												
		基本設計												
	基本・実施設計	測量・地質調査												
		実施設計												
	各種申請	開発許可、自然公園												
		確認申請												
	調査・設計 (笹山駐車場)	基本・実施設計	発注手続き											
			基本・実施設計											
		各種申請	自然公園										開発許可を必要としない設計	
			確認申請											
調査・設計 (新設駐車場)		基本・実施設計	発注手続き											
			基本設計											
		各種申請	測量・地質調査											
			実施設計											
		工事	旧みさき荘	建築工事										
				解体工事										
	笹山駐車場		土木・外構工事											
			建築工事											
	笹山駐車場～旧みさき荘(芸術St整備)		解体工事											
			外構工事											
新設駐車場	建築工事													
	土木・外構工事													
大鳴門橋関連工事	解体工事													
	建築工事													
営業	開業準備	引越し									備品搬入、調理練習等			
	旧みさき荘	既設運用												
		新施設運用									22ヶ月休業			
	新設駐車場	新施設運用												
新施設運用														
備考														

10 事業手法の検討(民間活力導入可能性調査)

10.1 道の駅うずしお

- 道の駅うずしおの建替えに際し、事業手法として、①公設+指定管理②PFI(BTO)方式③BT+コンセッション方式の3種類について比較検討を行った。
- 民間の創意工夫の発揮、市の財政負担軽減の観点からは②PFI(BTO)方式や、③BT+コンセッション方式が優位であるが、大阪・関西万博開催までに事業開始という時間的制約を踏まえ、一般的にPFI事業に比べ短期間での実施が可能である①公設+指定管理で実施する。

	【パターン①】公設+指定管理	【パターン②】PFI(BTO)方式	【パターン③】BT+コンセッション方式
スキーム			
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 従来方式のため、庁内調整が容易。 万博開催までの事業開始という時間的制約がある中で、従来方式はPFI事業に比べ短期間での実施が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備費の一部を民間事業者の独立採算とすることで市負担額を抑制する。 民間による提案施設の導入を求めることが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営権には抵当権の設定が可能
事業期間	10年程度	15年程度	15~30年程度
公共の財政負担	<ul style="list-style-type: none"> 設計建設費は市が負担(起債)する必要がある。 市の単年度総支出額が20億以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間提案によりコスト縮減が図られるほか、財政支出の平準化が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間提案によりコスト縮減が図られるほか、財政支出の平準化が可能。
民間投資の自由度	<ul style="list-style-type: none"> 改築等の投資は指定管理者の業務範囲外であり、別途市が発注する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画修繕は可能であるが、施設建設後、建物の所有権は市に渡るため、大規模修繕等の投資は市の負担となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画修繕のほか、運営権者による自発的な修繕や増改築も可能。
留意事項	設計、建設費は市が負担することとなる。	銀行からの融資が獲得できるか。	契約手続きが他のパターンと比べると煩雑

10.2 笹山駐車場及び新設駐車場

- 笹山駐車場及び新設駐車場については、市の財政負担を可能な限り抑える観点から、PFI事業を視野に入れて検討を進めている。
- 複数の民間企業へのヒアリングによると、レンタサイクル事業のみでは採算確保は困難であるが、他の民間提案施設(宿泊施設等の収益事業)を含めて実施可能であれば事業参画に向けて検討可能である企業も見られたことから、PFI事業による事業スキームの検討を継続して実施していくことが望ましいと考えられる。
- PFI事業を実施する場合のスケジュール案について以下に整理した。大阪・関西万博開催までの運営開始を目標とすると、2023(令和5)年内には事業者選定を完了し、実施設計、確認申請、工事を実施し、2024(令和6)年度内に新施設の営業開始することを想定している(スケジュールについては道の駅建替え工事との関連を踏まえて今後詳細な検討が必要)。
- 上記スケジュールを遂行するため、基本設計後に自然公園関連の申請の実施や、インフラ工事、新設駐車場の土木工事については従来方式により先行して実施することが望ましい。

大項目	中項目	小項目	実施設計完了 ↓ ↓ 万博開催							備考
			R1 2020	R2 2021	R3 2022	R4 2023	R5 2024	R6 2025	R7 2025	
調査	基本構想・計画									
	実施方針の公表									
事業者選定	特定事業者の選定・公表									
	民間事業者の募集									
	民間事業者の提案提出									
	落札者の決定、基本協定書の締結									
	事業契約書の締結、事業実施									
設計	基本・実施設計	基本設計								
		実施設計								
	各種申請	自然公園								
		確認申請								
工事	笹山駐車場	解体申請								
		建築工事								
		外構工事								
	新設駐車場	土木工事								
		土木工事								
	インフラ工事	建築工事								
		外構工事								
営業	新施設	笹山駐車場								
		新設駐車場								